

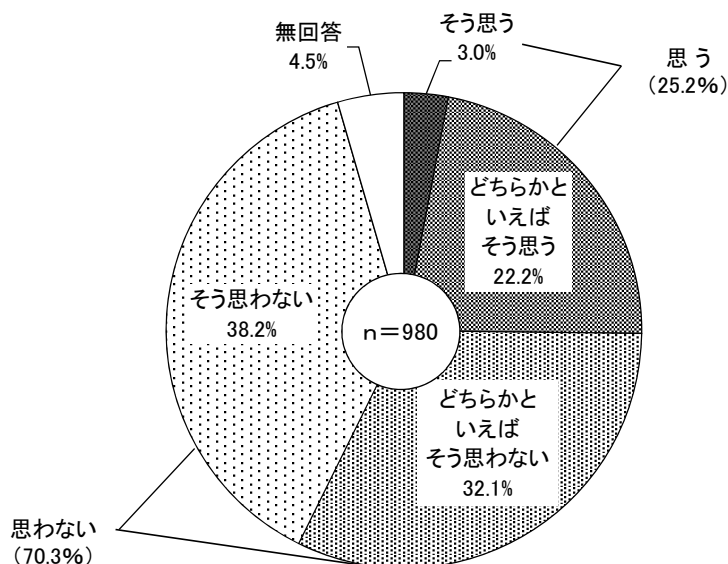
5 男女共同参画に関する意識と実態について

(1) 男女の役割分担に対する考え方

◇『思う』が2割半ば、『思わない』が7割

問33 あなたは、『男は仕事、女は家庭』という考え方をどう思いますか。(○は1つ)

図5-1-1 男女の役割分担に対する考え方



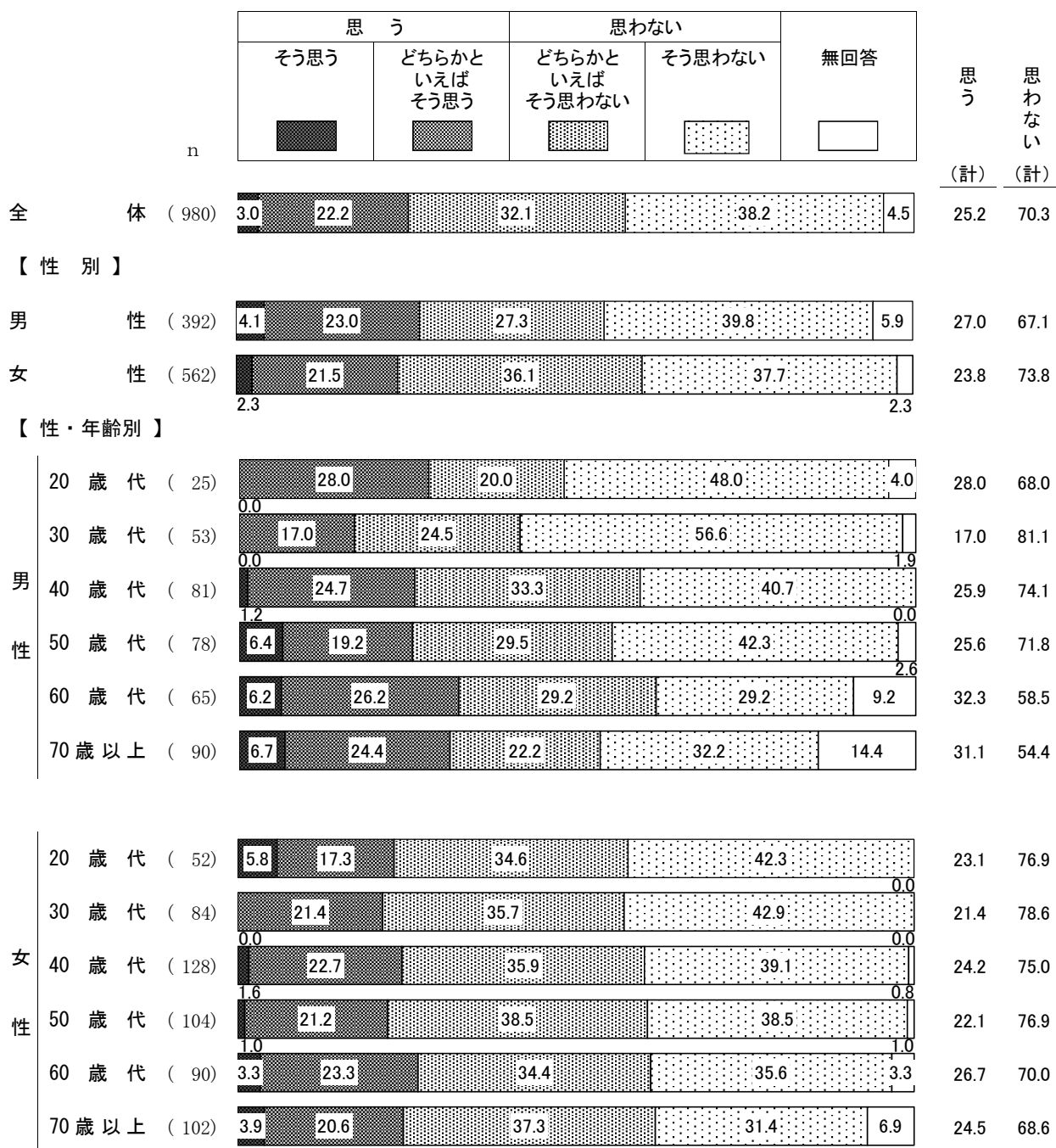
『男は仕事、女は家庭』という考え方について聞いたところ、「そう思う」(3.0%)、「どちらかといえばそう思う」(22.2%)を合わせた『思う』(25.2%)は2割半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(32.1%)、「そう思わない」(38.2%)を合わせた『思わない』(70.3%)がほぼ7割となっている。(図5-1-1)

図5-1-2 男女の役割分担に対する考え方一過年度比較

n	思う		思わない		無回答	思う (計)	思わない (計)
	そう思う	どちらかといえば 思う	どちらかといえば 思わない	そう思わない			
平成26年度 (980)	3.0	22.2	32.1	38.2	4.5	25.2	70.3
平成21年度 (1,061)	4.9	27.5	31.7	35.8	0.1	32.4	67.5

過去の調査と比較すると、『思う』は平成21年度より7.2ポイント減少し、『思わない』は2.8ポイント増加している。(図5-1-2)

図5-1-3 男女の役割分担に対する考え方—性別／性・年齢別



性別にみると、『思う』は男性の方が3.2ポイント高く、『思わない』は女性の方が6.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『思う』は男性60歳代、70歳以上で3割を超えている。『思わない』は男女それぞれ30歳代で多く、男性30歳代で8割を超え、女性30歳代で8割近くとなっている。

(図5-1-3)

(1-1) 『男は仕事、女は家庭』と思う理由

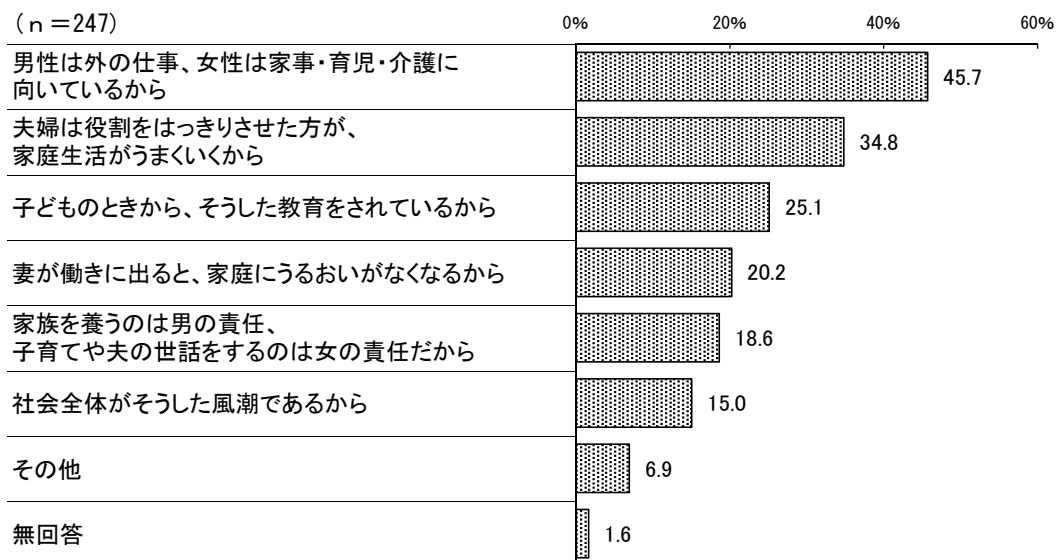
◇「男性は外の仕事、女性は家事・育児・介護に向いているから」が4割半ば

(問33で「1. そう思う」または「2. どちらかといえばそう思う」と答えた方へ)

問33-1 そう思うのは、どのような理由からですか。

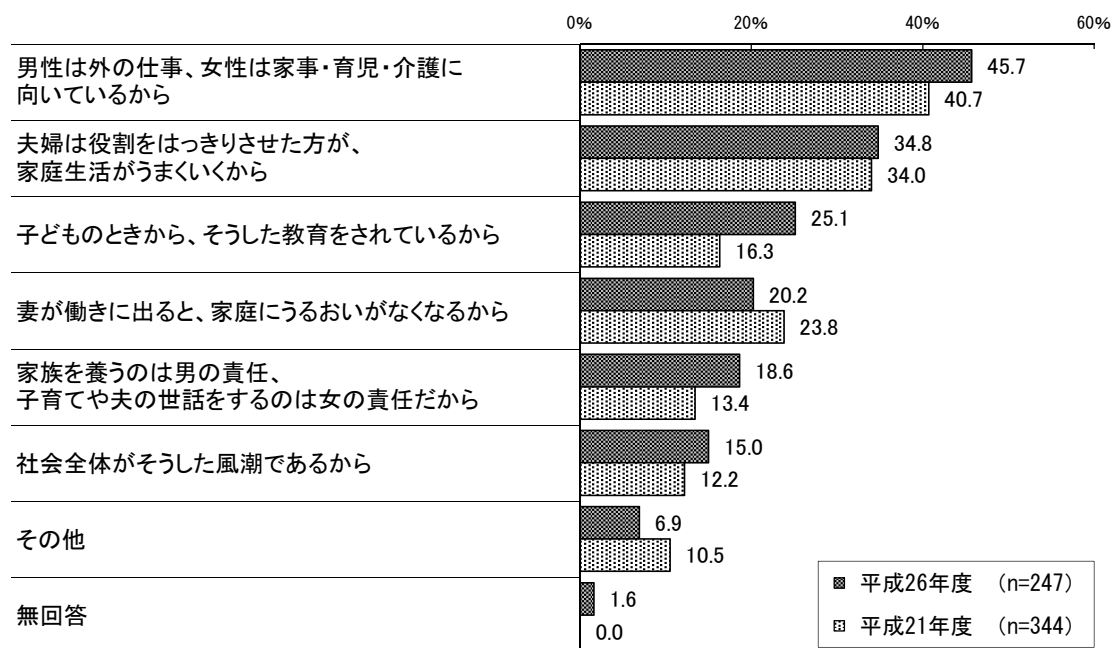
次の中から2つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。(2つまで)

図5-1-4 『男は仕事、女は家庭』と思う理由



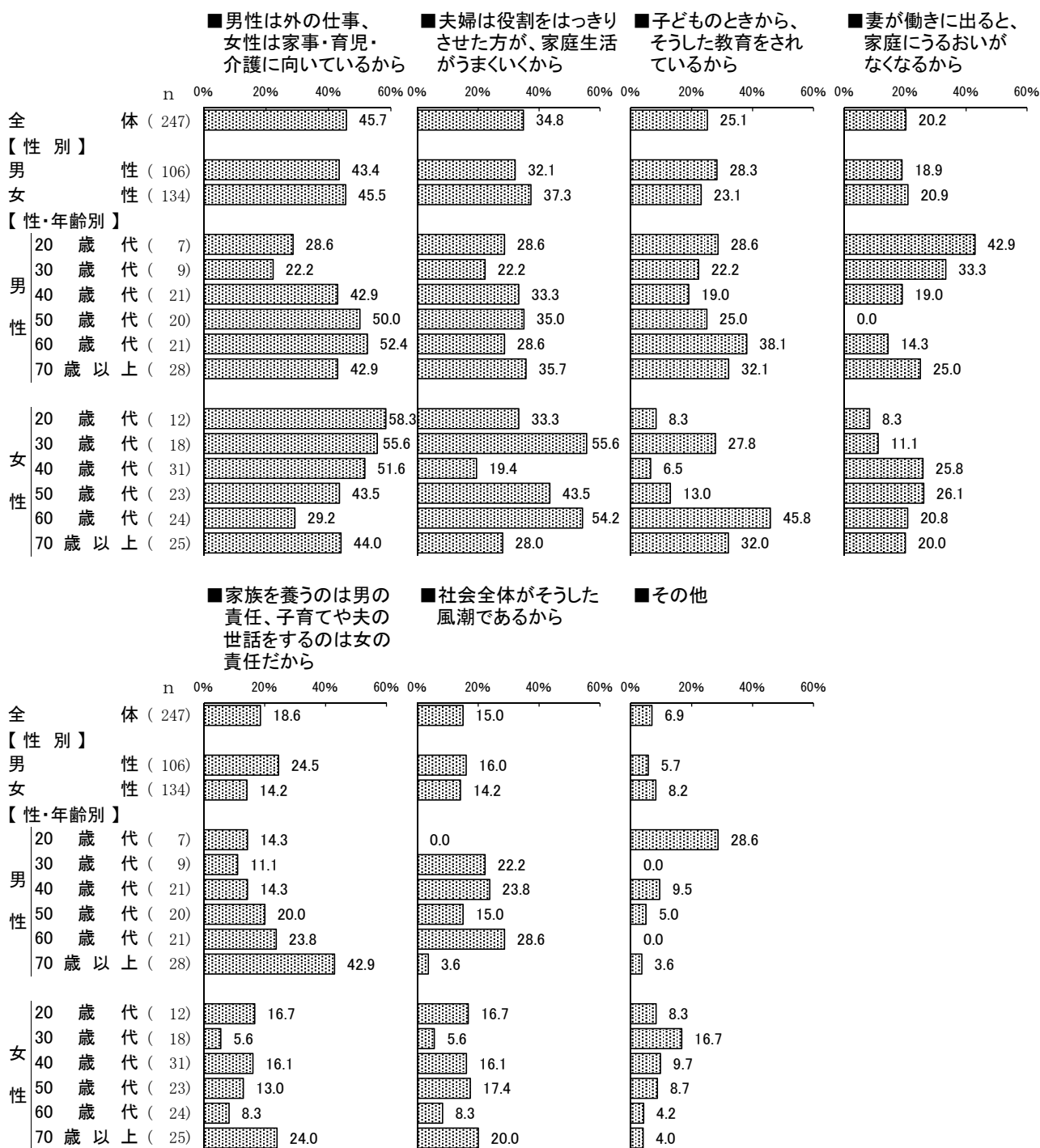
『男は仕事、女は家庭』という考え方について「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた方(247人)にそう思う理由を聞いたところ、「男性は外の仕事、女性は家事・育児・介護に向いているから」(45.7%)が4割半ばと最も多く、次いで「夫婦は役割をはっきりさせた方が、家庭生活がうまくいくから」(34.8%)、「子どものときから、そうした教育をされているから」(25.1%)、「妻が働きに出ると、家庭にうるおいがなくなるから」(20.2%)などの順となっている。(図5-1-4)

図5-1-5 『男は仕事、女は家庭』と思う理由一過年度比較



過去の調査と比較すると、平成21年度より「男性は外の仕事、女性は家事・育児・介護に向いているから」が5.0ポイント、「子どものときから、そうした教育をされているから」が8.8ポイント、「家族を養うのは男の責任、子育てや夫の世話をするのは女の責任だから」が5.2ポイントそれぞれ増加している。一方、「妻が働きに出ると、家庭にうるおいがなくなるから」は3.6ポイント減少している。（図5-1-5）

図5-1-6 『男は仕事、女は家庭』と思う理由—性別／性・年齢別



性別にみると、男性の方が「家族を養うのは男の責任、子育てや夫の世話をするのは女の責任だから」が10.3ポイント、「子どものときから、そうした教育をされているから」が5.2ポイント高くなっている。一方、女性の方が「夫婦は役割をはっきりさせた方が、家庭生活がうまくいくから」が5.2ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「男性は外の仕事、女性家事・育児・介護に向いているから」は男性50歳代、60歳代、女性20歳代から40歳代で5割台、「夫婦は役割をはっきりさせた方が、家庭生活がうまくいくから」は女性30歳代、60歳代で5割半ば、「子どものときから、そうした教育をされているから」は女性60歳代で4割半ばとそれぞれ多くなっている。「妻が働きに出ると、家庭にうるおいがなくなるから」は男性20歳代で4割を超えて多くなっている。「家族を養うのは男の責任、子育てや夫の世話をするのは女の責任だから」は、男性は高い年代ほど多い傾向となっている。(図5-1-6)

(2) 家庭における男女の役割分担

◇本来あるべきより実際に上回るのは「男性は仕事、女性は家事等を分担」、「男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担」

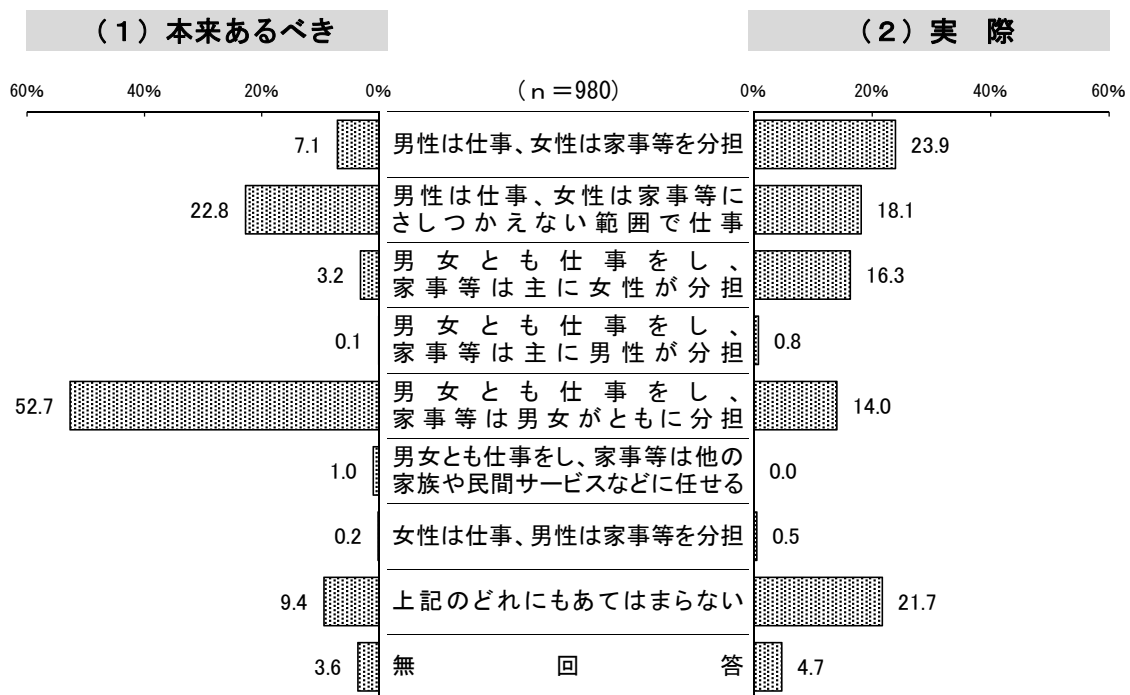
◇実際より本来あるべきが上回るのは「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」

問34 家庭における男女の役割分担についておたずねします。

(1) あなたは、家庭における男女の役割分担について、本来どのようにあるべきだと思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

(2) では、あなたのご家庭での実際の男女の役割分担は、どのようになっていますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

図5-2-1 家庭における男女の役割分担

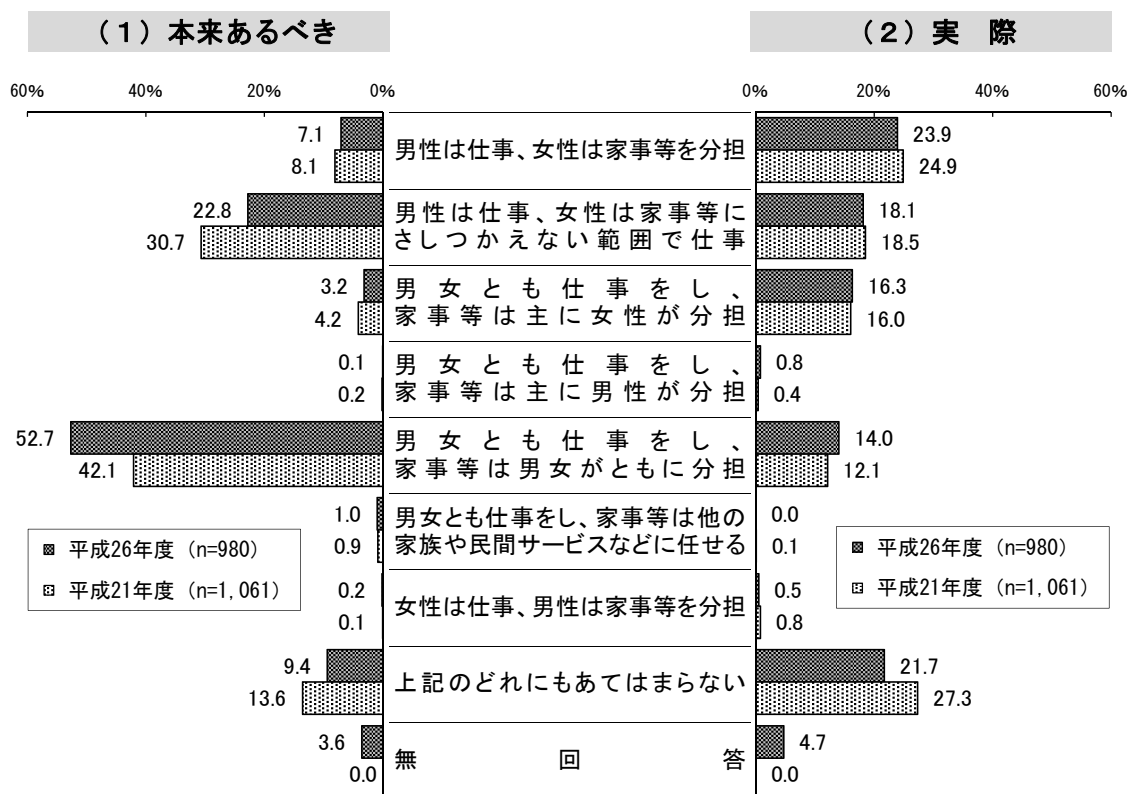


家庭における男女の役割分担について聞いたところ、(1) 本来あるべき役割分担は、「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」(52.7%)が5割を超えて最も多く、次いで「男性は仕事、女性は家事等にさしつかえない範囲で仕事」(22.8%)となっている。

(2) 実際の役割分担は、「男性は仕事、女性は家事等を分担」(23.9%)が2割を超えて最も多く、次いで「男性は仕事、女性は家事等にさしつかえない範囲で仕事」(18.1%)、「男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担」(16.3%)、「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」(14.0%)などと1割台で分散している。

本来あるべきより実際に上回っているのは、「男性は仕事、女性は家事等を分担」(16.8ポイント差)、「男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担」(13.1ポイント差)などとなっている。一方、実際より本来あるべきが上回っているのは、「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」であり、38.7ポイントの差となっている。(図5-2-1)

図5-2-2 家庭における男女の役割分担—過年度比較

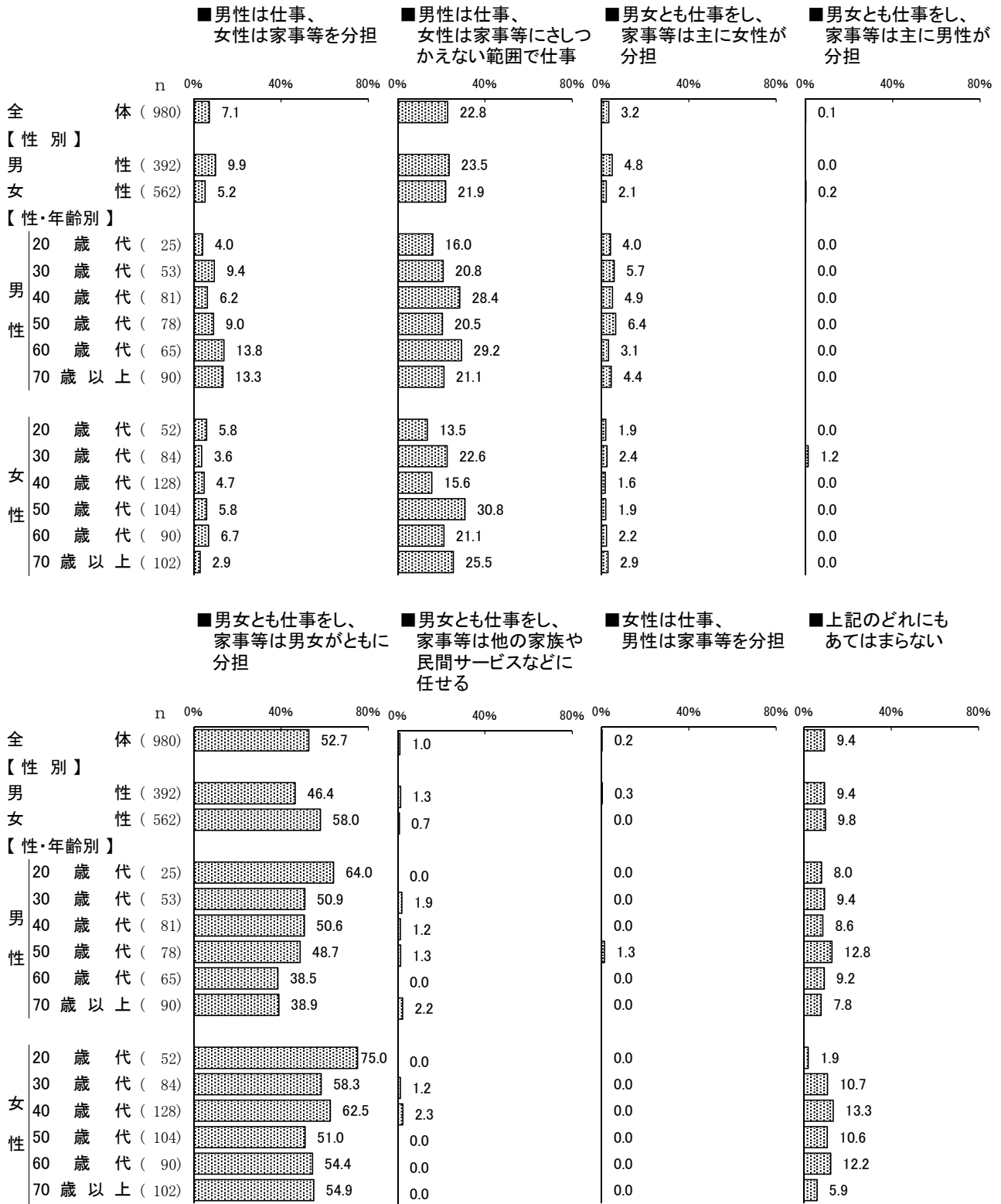


過去の調査と比較すると、(1) 本来あるべき役割分担については、平成21年度より「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」が10.6ポイント増加している。一方、「男性は仕事、女性は家事等にさしつかえない範囲で仕事」が7.9ポイント減少している。

(2) 実際の役割分担については、平成21年度と比較して大きな傾向の違いはみられない。

(図5-2-2)

図5-2-3 家庭における男女の役割分担（1）本来あるべき性別／性・年齢別

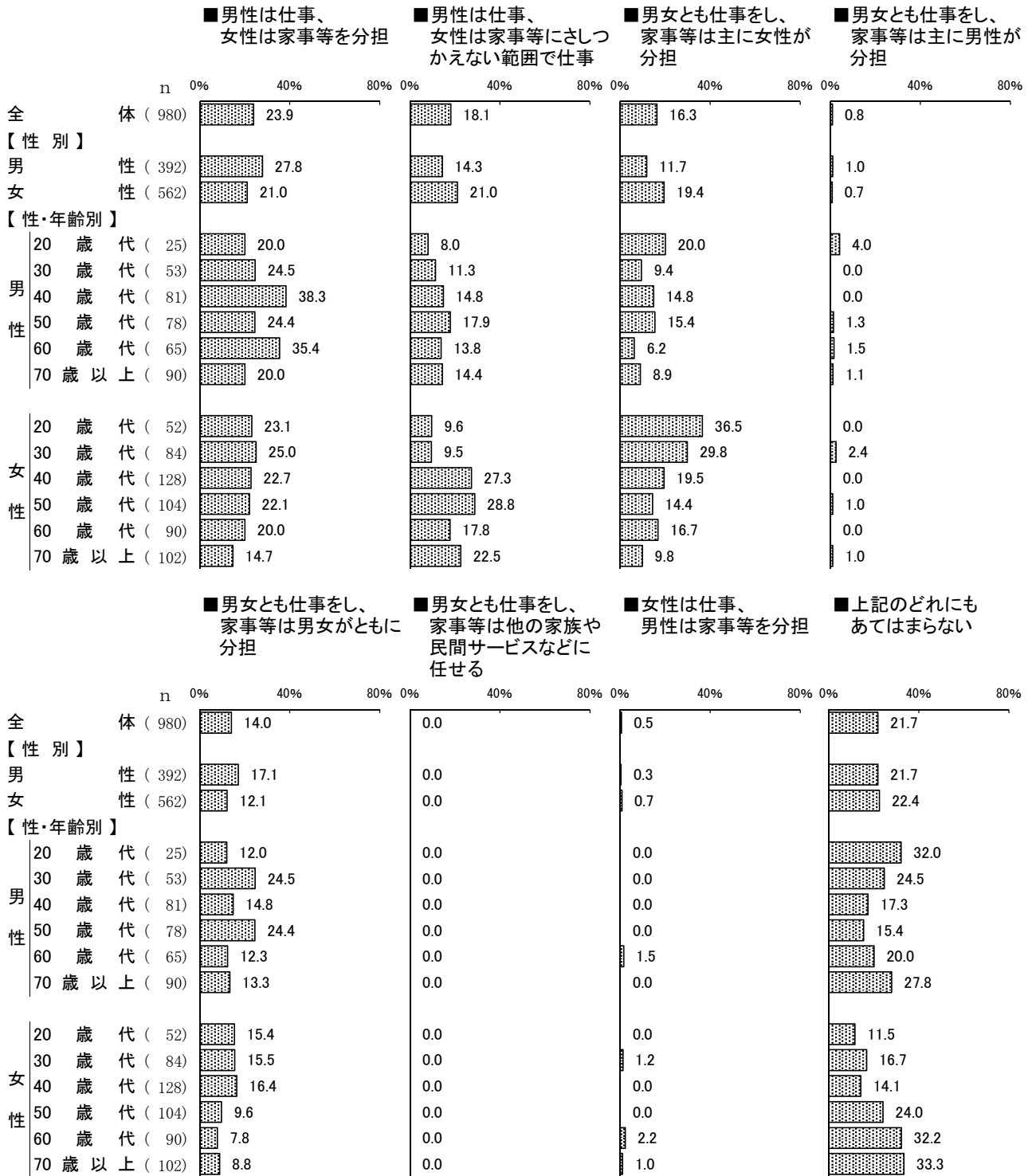


(1) 本来あるべき役割分担について、性別にみると、「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」は女性の方が11.6ポイント高く、「男性は仕事、女性家事等を分担」は男性の方が4.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」は男女ともに低い年代ほど多い傾向となっており、女性20歳代で7割半ば、男性20歳代で6割半ばとなっている。

(図5-2-3)

図5-2-4 家庭における男女の役割分担（2）実際—性別／性・年齢別



（2）実際の役割分担について、性別にみると、男性の方が「男性は仕事、女性は家事等を分担」が6.8ポイント、「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」が5.0ポイント高くなっている。一方、女性の方が「男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担」が7.7ポイント、「男性は仕事、女性は家事等にさしつかえない範囲で仕事」が6.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「男性は仕事、女性は家事等を分担」は男性40歳代、60歳代で3割台と多く、女性は低い年代ほど多い傾向となっている。「男性は仕事、女性は家事等にさしつかえない範囲で仕事」は女性40歳代、50歳代で3割近くと多くなっている。「男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担」は女性については低い年代ほど多い傾向となっている。

（図5-2-4）

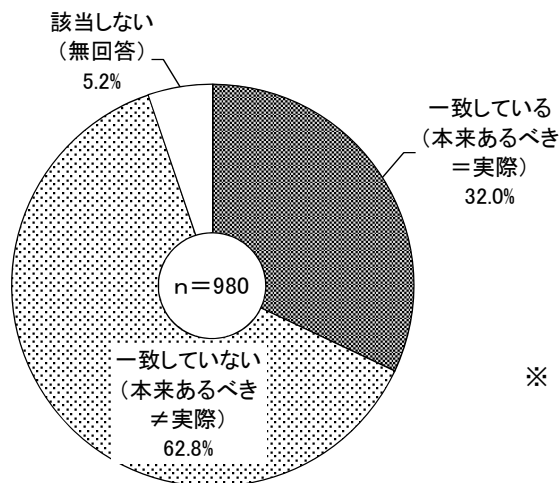
図5-2-5 家庭における男女の役割分担の考えと実際的一致状況①

(%)

	n	(2) 実 際								
		女性 は家事等 を分担	男性 は仕事、 女性 は家事等 にさしつか えない範 囲で仕事	男性 は仕事、 女性 は家事等 を分担	男女 とも仕事 をし、家 事等は主 に女性が 分担	男女 とも仕事 をし、家 事等は主 に男性が 分担	男女 とも仕事 をし、家 事等は男 女がとも に分担	男女 とも仕事 をし、家 事等は他 の家族や 民間サー ビスなど に任せる	女性 は家事等 を分担	男性 は仕事、 女性 は家事等 を分担
男性は仕事、女性は家事等を分担	(980)	7.1	21.8	2.8	2.5	0.0	1.5	0.0	0.0	2.3
男性は仕事、 女性は家事等にさしつかえない範囲で仕事	(980)	22.8	28.6	48.6	13.1	0.0	2.9	0.0	20.0	19.2
男女とも仕事をし、家事等は主に女性が分担	(980)	3.2	2.6	2.3	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3
男女とも仕事をし、家事等は主に男性が分担	(980)	0.1	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担	(980)	52.7	35.0	36.2	70.0	100.0	89.8	0.0	60.0	53.5
男女とも仕事をし、家事等は他の家族や 民間サービスなどに任せる	(980)	1.0	0.4	1.1	1.3	0.0	0.7	0.0	0.0	1.9
女性は仕事、男性は家事等を分担	(980)	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.5
上記のどれにもあてはまらない	(980)	9.4	11.1	6.8	4.4	0.0	4.4	0.0	20.0	18.8
無回答	(980)	3.6	0.4	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5

家庭における男女の役割分担の考えと実際的一致状況についてみると、実際が「男女とも仕事をし、家事等は男女がともに分担」と答えた方の9割近くが本来あるべき（理想）と一致している。一方、実際が「男性は仕事、女性は家事等にさしつかえない範囲で仕事」と答えた方では5割近く、「男性は仕事、女性は家事等を分担」と答えた方では2割近くとなっており、理想と一致している割合が少なくなっている。（図5-2-5）

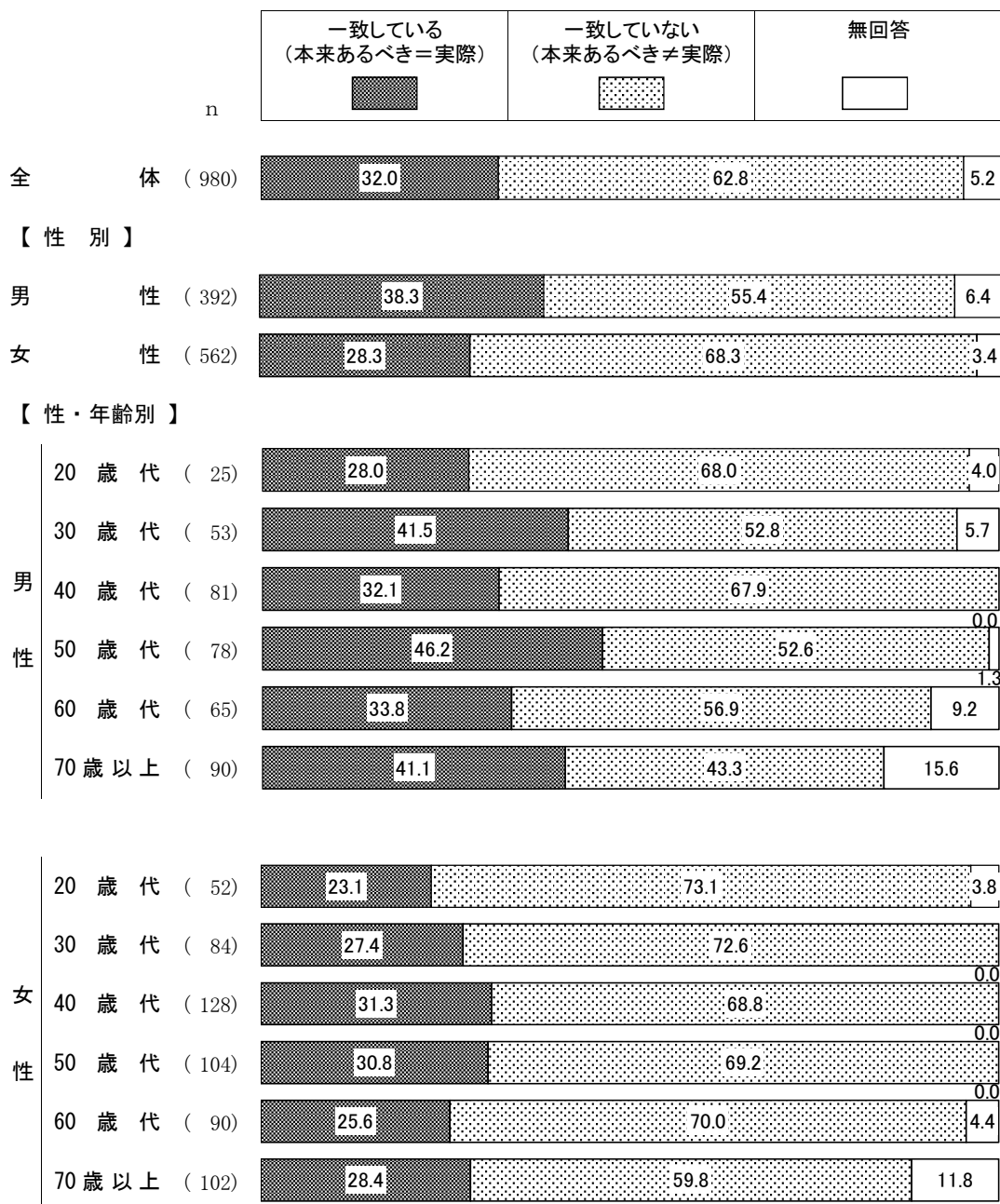
図5-2-6 家庭における男女の役割分担の考えと実際的一致状況②



※ 家庭における男女の役割において、問34-1（本来あるべき）と問34-2（実際）の回答が一致しているかを集計。

家庭における男女の役割分担について、本来あるべき（理想）と実際が『一致している』（32.0%）は全体の3割ほどに対し、『一致していない』（62.8%）が6割を超えており、『一致している』より上回っている。（図5-2-6）

図5-2-7 家庭における男女の役割分担の考えと実際の一致状況②-性別/性・年齢別



本来あるべき（理想）と実際の一致状況について、性別にみると、『一致している』は男性の方が10.0ポイント高く、『一致していない』は女性の方が12.9ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『一致している』は男性30歳代、50歳代、70歳以上で4割台と多くなっている。『一致していない』は女性20歳代、30歳代、60歳代で7割台と多くなっている。

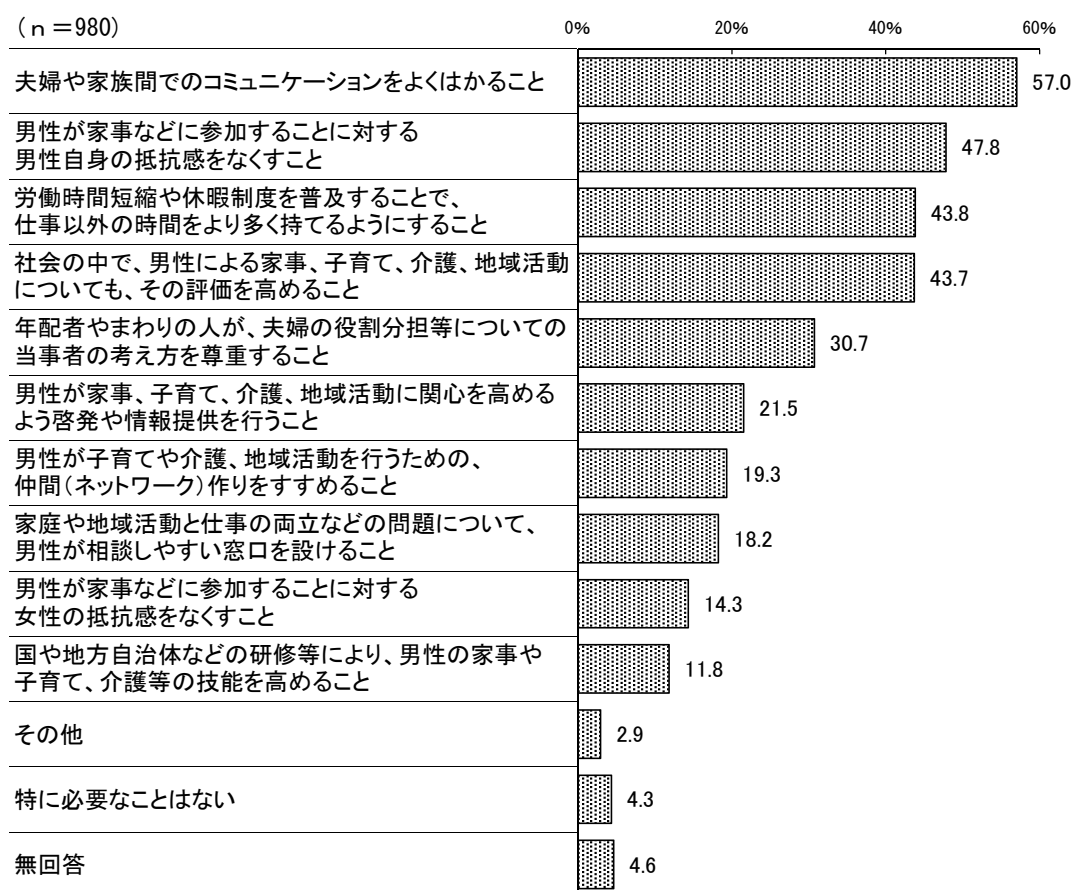
(図5-2-7)

(3) 男性が家事・子育て等に参画するために必要なこと

◇「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が6割近く

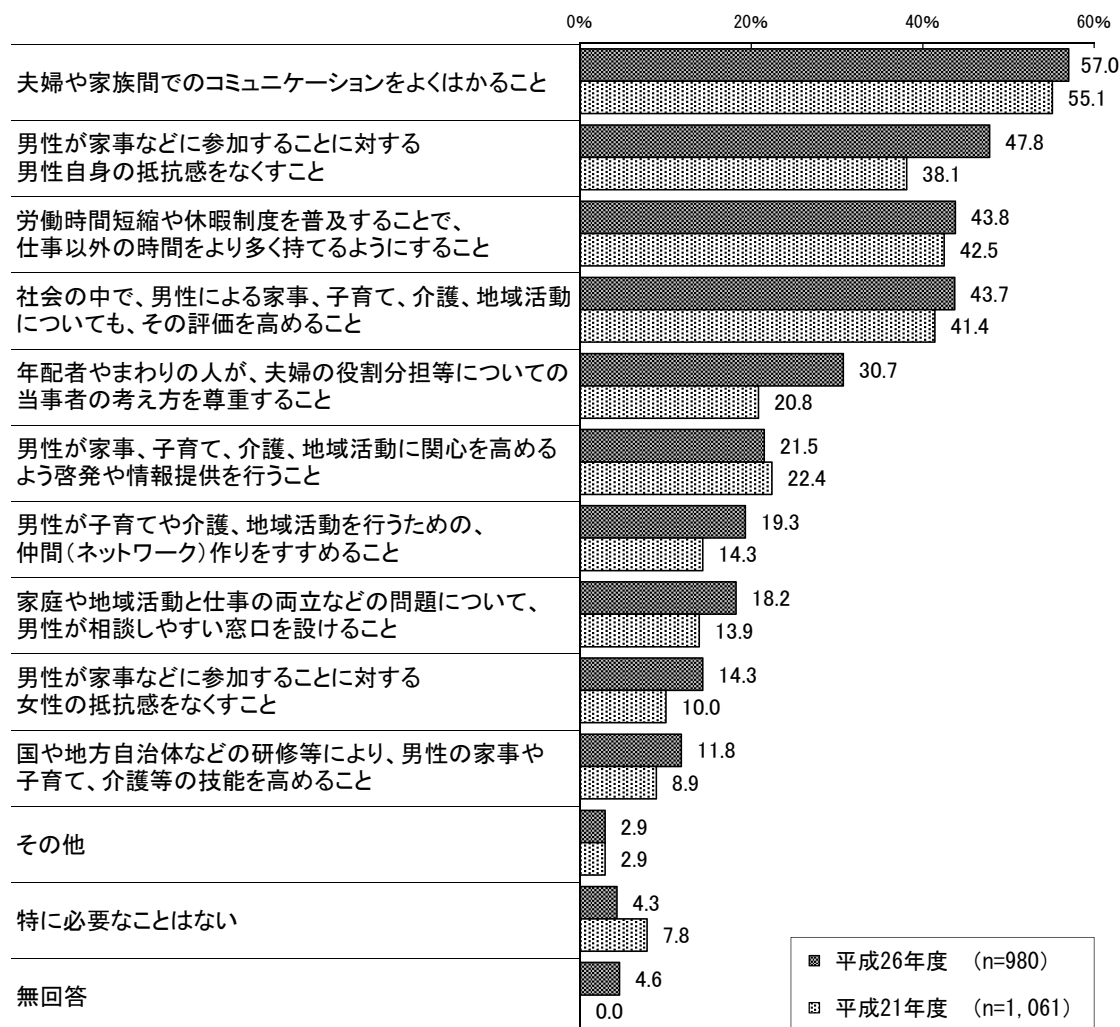
問35 あなたは、今後、男性が、女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを選んでください。（〇はいくつでも）

図5-3-1 男性が家事・子育て等に参画するために必要なこと



男性が家事、子育て等に参画するために必要なことを聞いたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(57.0%)が6割近くと最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(47.8%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(43.8%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」(43.7%)などの順となっている。(図5-3-1)

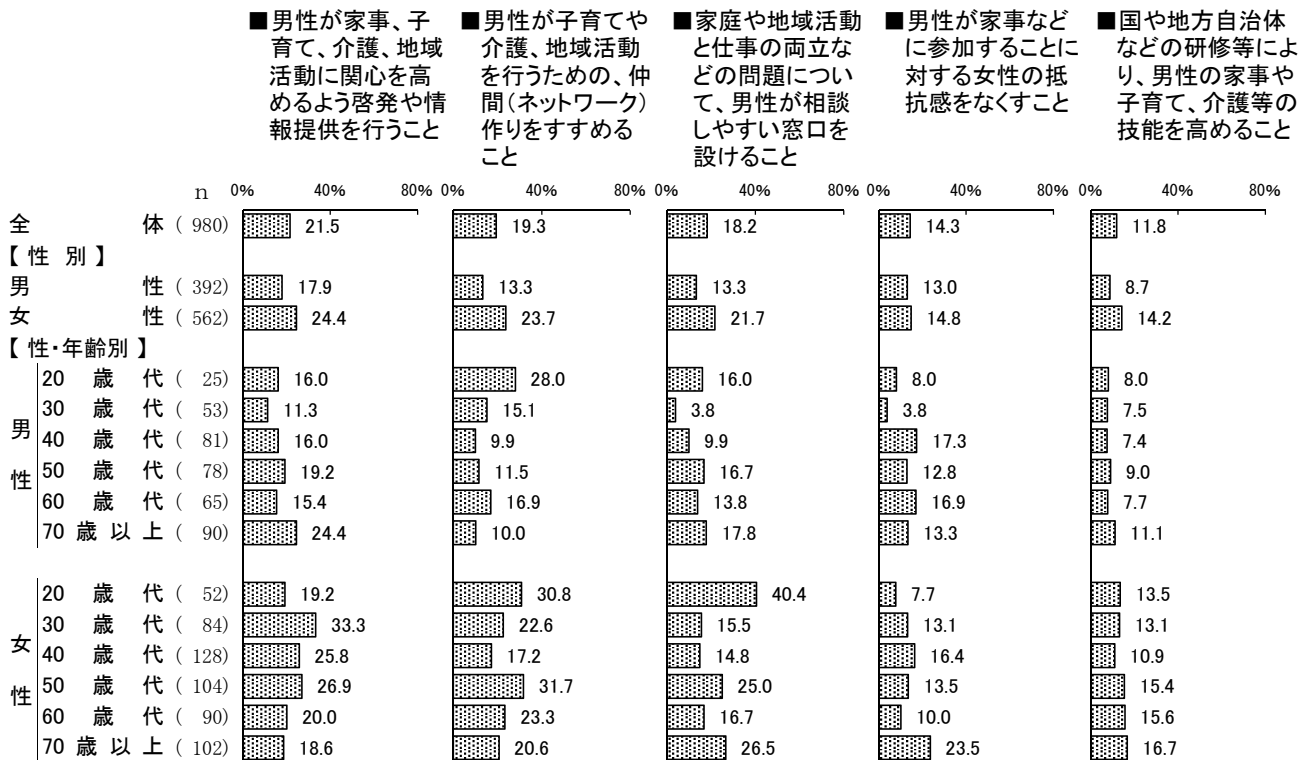
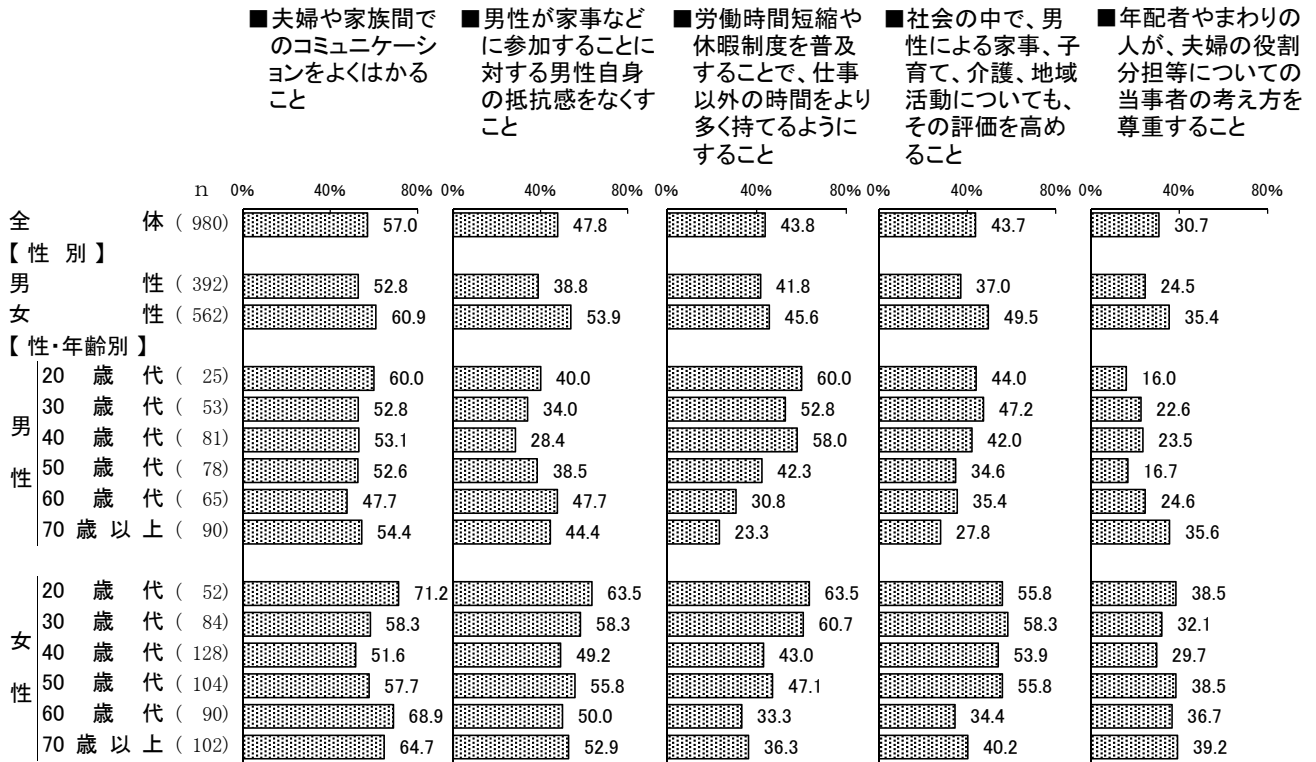
図5-3-2 男性が家事・子育て等に参画するために必要なこと一過年度比較



過去の調査と比較すると、平成21年度より「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」が9.9ポイント、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が9.7ポイント、「男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること」が5.0ポイント増加している。

(図5-3-2)

図5-3-3 男性が家事・子育て等に参画するために必要なこと(上位10位)－性別／性・年齢別



性別にみると、女性の方が、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は15.1ポイント、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」は12.5ポイントと全体的に多くなっている。

性・年齢別にみると、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」は男女ともに低い年代ほど多い傾向となっている。

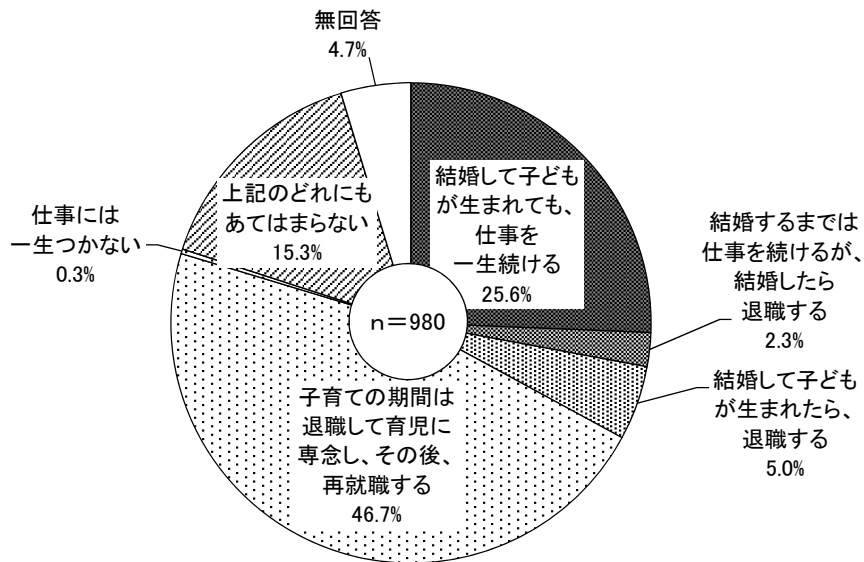
(図5-3-3)

(4) 女性と仕事の最も望ましいかかわり方

◇「子育ての期間は退職して育児に専念し、その後、再就職する」が4割半ば

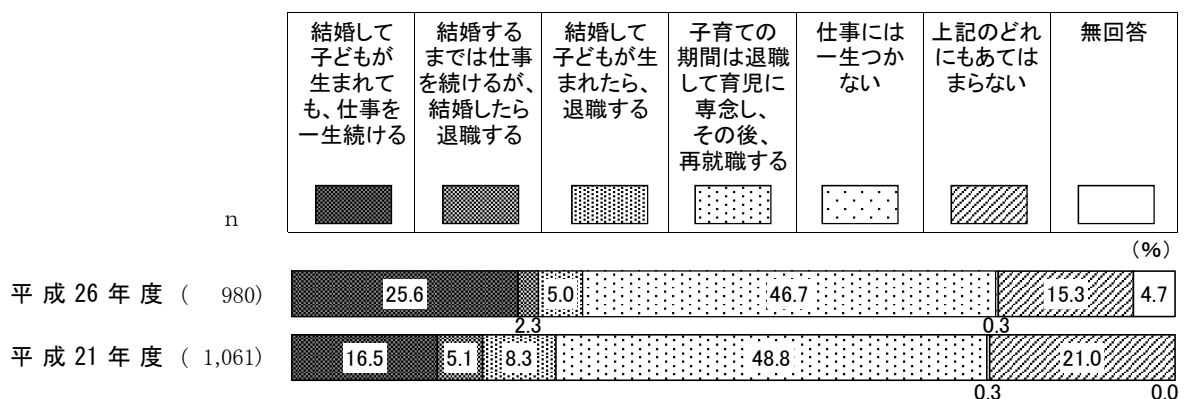
問36 あなたは、女性と仕事のかかわり方について、どのように思いますか。最も望ましいと思うものを1つ選んでください。(〇は1つ)

図5-4-1 女性と仕事の最も望ましいかかわり方



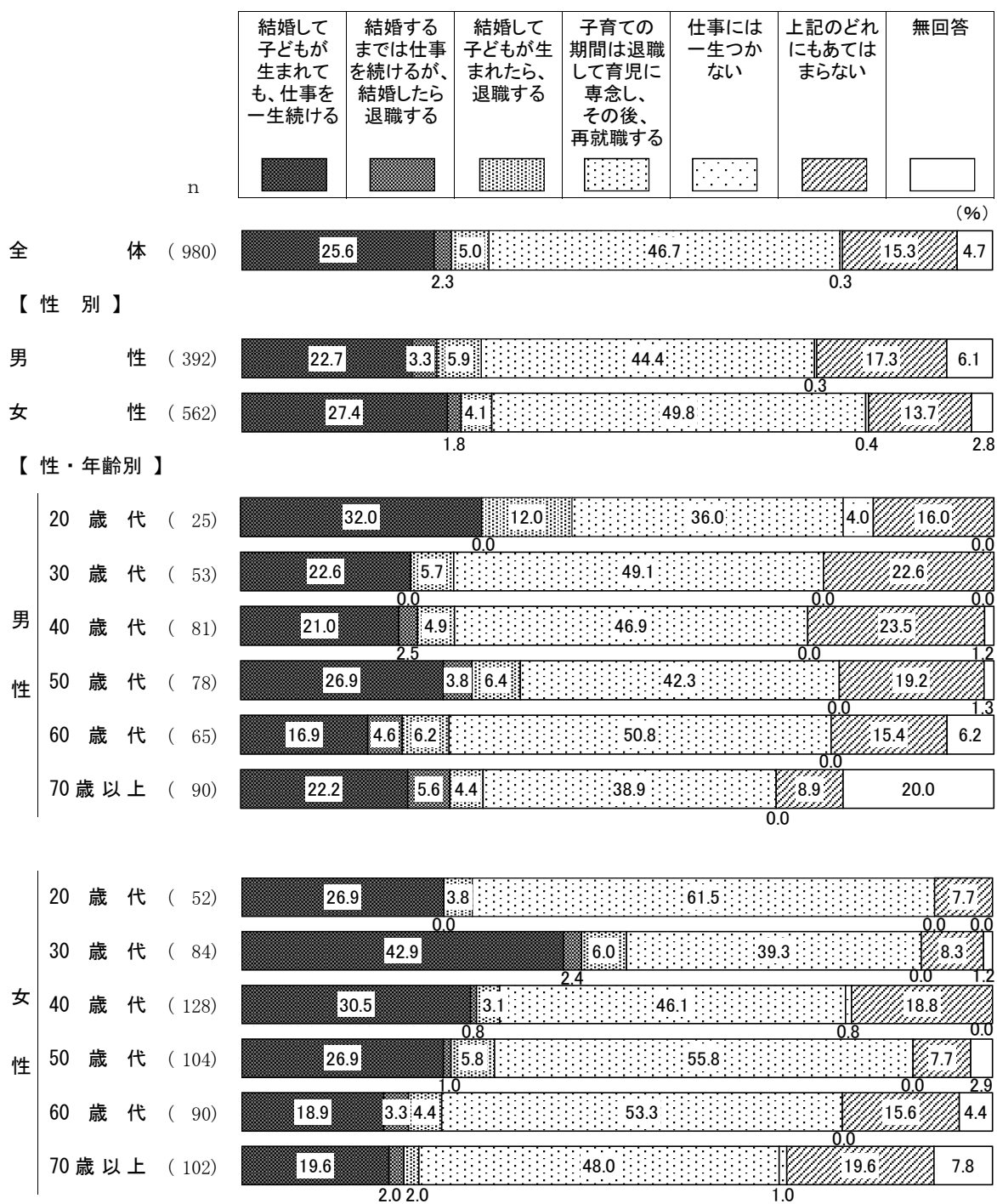
女性と仕事の最も望ましいかかわり方について聞いたところ、「子育ての期間は退職して育児に専念し、その後、再就職する」(46.7%)が4割半ばと最も多く、次いで「結婚して子どもが生まれても、仕事を一生続ける」(25.6%)が2割半ばとなっている。(図5-4-1)

図5-4-2 女性と仕事の最も望ましいかかわり方—過年度比較



過去の調査と比較すると、平成21年度より「結婚して子どもが生まれても、仕事を一生続ける」が9.1ポイント増加し、「結婚して子どもが生まれたら、退職する」が3.3ポイント減少している。(図5-4-2)

図5-4-3 女性と仕事の最も望ましいかわり方—性別／性・年齢別



性別にみると、女性の方が「子育ての期間は退職して育児に専念し、その後、再就職する」が5.4ポイント、「結婚して子どもが生まれても、仕事を一生続ける」が4.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「子育ての期間は退職して育児に専念し、その後、再就職する」は女性20歳代で6割を超えて多くなっている。「結婚して子どもが生まれても、仕事を一生続ける」は女性30歳代で4割を超えて多く、女性については30歳代以上の年代で高い年代ほど割合が少ない傾向となっている。(図5-4-3)

(5) 生活の中での優先度（ワーク・ライフ・バランス）

◇希望より現実が上回るのは「『仕事』を優先している」

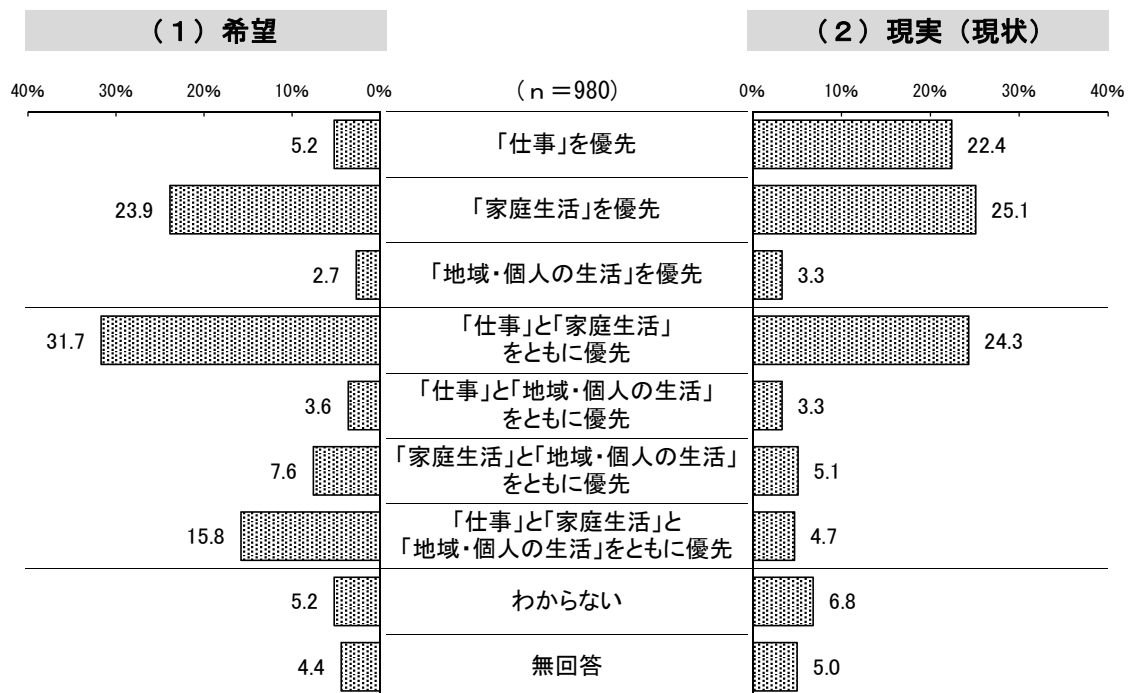
◇現実より希望が上回るのは「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」

問37 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。

(1) まず、あなたの希望に最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

(2) それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

図5-5-1 生活の中での優先度（ワーク・ライフ・バランス）

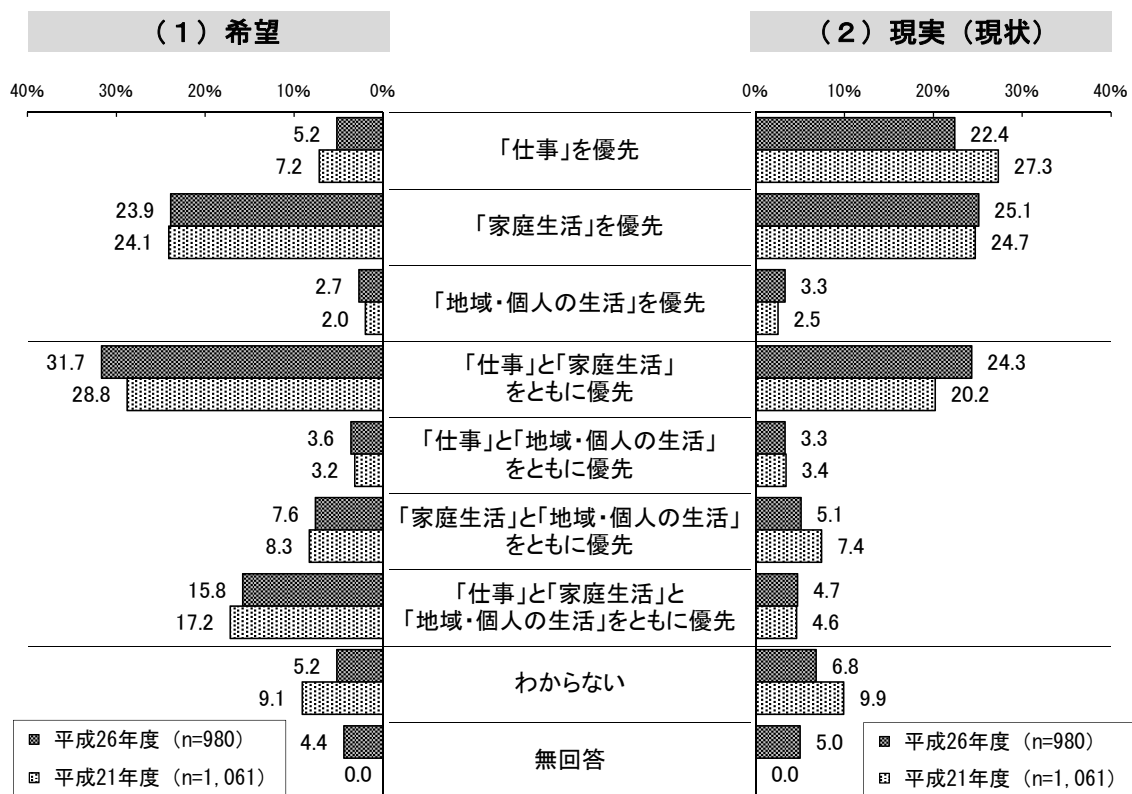


生活の中での、『仕事』、『家庭生活』、『地域・個人の生活』に対する優先度について聞いたところ、(1) 希望については、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」(31.7%)が3割を超えて最も多く、「『家庭生活』を優先したい」(23.9%)、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」(15.8%)、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」(7.6%)などの順となっている。

(2) 現実(現状)については、「『家庭生活』を優先している」(25.1%)、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」(24.3%)、「『仕事』を優先している」(22.4%)がそれぞれ2割台となっている。

希望より現実(現状)が上回っているのは、「『仕事』を優先している」(17.2ポイント差)となっている。一方、現実(現状)より希望が上回っているのは、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(7.4ポイント差)、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」(11.1ポイント差)となっている。(図5-5-1)

図5-5-2 生活の中での優先度（ワーク・ライフ・バランス）－過年度比較

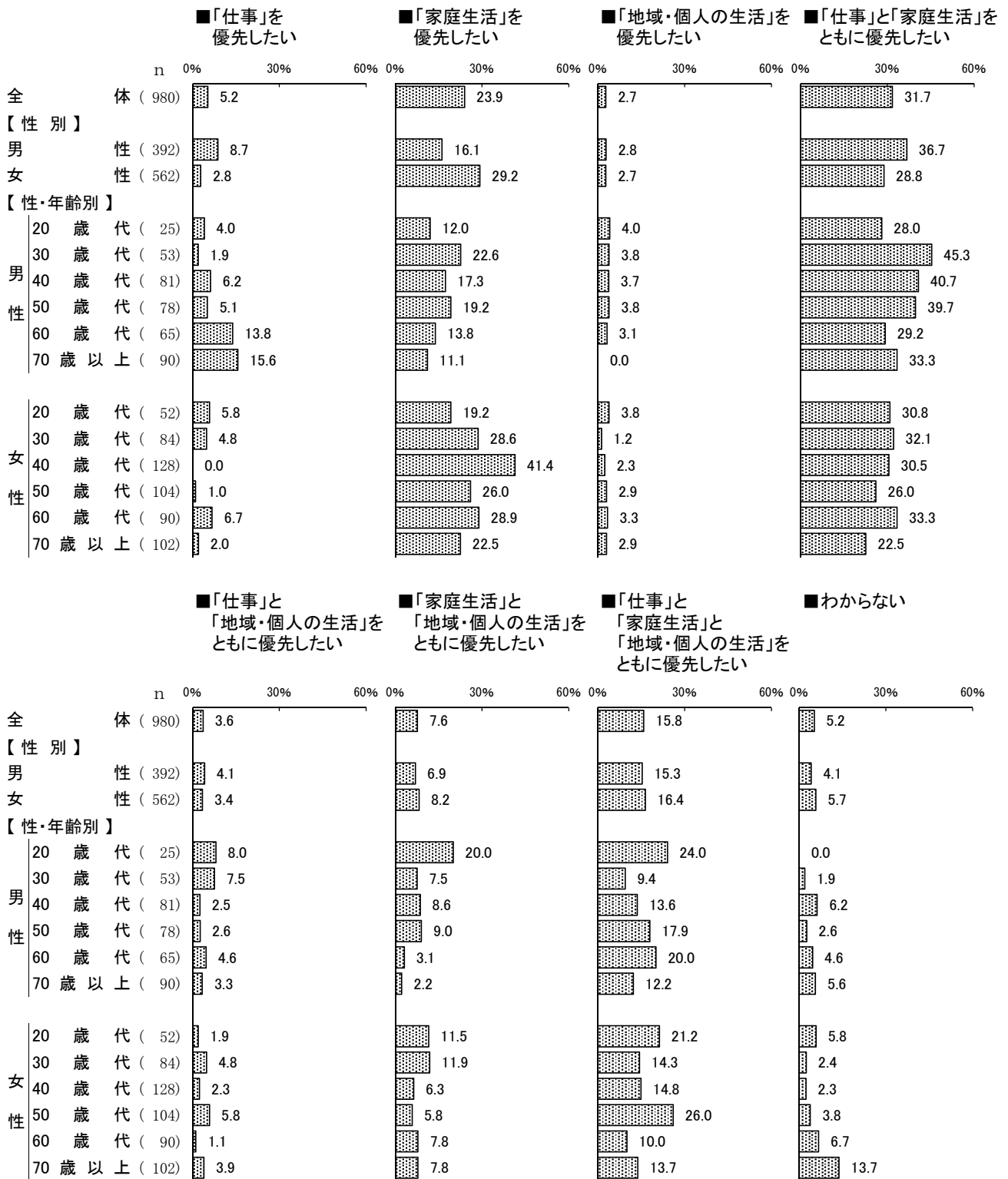


過去の調査と比較すると、(1) 希望については、平成21年度より「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が2.9ポイント増加しており、「『仕事』を優先したい」が2.0ポイント減少している。

(2) 現実(現状)については、平成21年度より「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が4.1ポイント増加し、「『仕事』を優先している」が4.9ポイント減少している。

(図5-5-2)

図5-5-3 生活の中での優先度(ワーク・ライフ・バランス)(1)希望-性別/性・年齢別

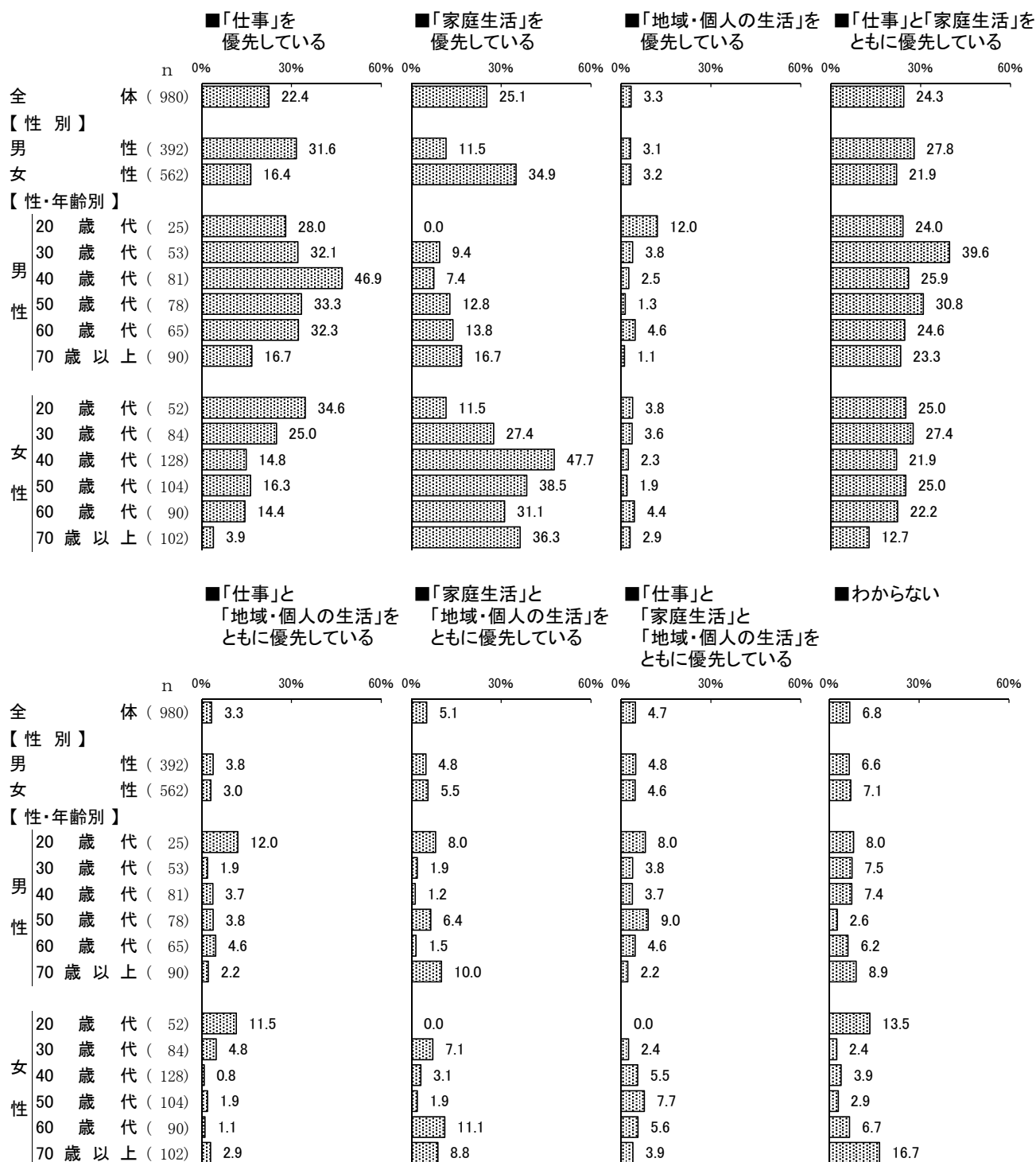


(1) 希望について、性別にみると、男性の方が「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が7.9ポイント、「『仕事』を優先したい」が5.9ポイント高く、女性の方が「『家庭生活』を優先したい」が13.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「『仕事』を優先したい」は男性については高い年代ほど多い傾向となっている。「『家庭生活』を優先したい」は女性40歳代で4割と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」は男性30歳から50歳代で4割前後と多くなっている。

(図5-5-3)

図5-5-4 生活の中での優先度(ワーク・ライフ・バランス)(2)現実(現状)－性別／性・年齢別



(2) 現実(現状)について、性別にみると、男性の方が「『仕事』を優先している」が15.2ポイント、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が5.9ポイント高く、女性の方が「『家庭生活』を優先している」が23.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「『仕事』を優先している」は男性40歳代で4割半ばと多く、女性20歳代が3割半ばと次いでおり、女性については低い年代ほど多い傾向となっている。「『家庭生活』を優先している」は女性40歳代で5割近くと多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」は男性30歳代で4割近くとなっている。「『地域・個人の生活』を優先している」は男性20歳代で、「『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先している」は男女ともに20歳代で1割を超えている。(図5-5-4)

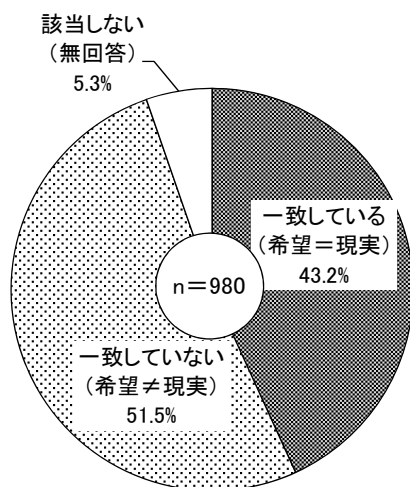
図5-5-5 生活の中での優先度（ワーク・ライフ・バランス）の希望と現実（現状）の一致状況①

(%)

	n	(2) 現実（現状）								
		「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	
(1) 希望		(980)	(220)	(246)	(32)	(238)	(32)	(50)	(46)	(67)
「仕事」を優先したい	5.2	16.8	1.2	3.1	1.7	0.0	2.0	0.0	6.0	
「家庭生活」を優先したい	23.9	15.9	56.1	0.0	15.5	3.1	12.0	6.5	19.4	
「地域・個人の生活」を優先したい	2.7	3.6	0.8	25.0	0.8	6.3	4.0	0.0	3.0	
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	31.7	36.4	22.4	18.8	60.5	12.5	8.0	4.3	17.9	
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	3.6	4.1	0.8	18.8	2.9	28.1	4.0	0.0	0.0	
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	7.6	6.8	6.1	15.6	4.2	9.4	42.0	2.2	4.5	
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	15.8	13.2	8.9	12.5	11.8	40.6	26.0	84.8	9.0	
わからない	5.2	3.2	2.4	6.3	2.5	0.0	2.0	2.2	40.3	
無回答	4.4	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

生活の中での優先度の希望と現実（現状）の一致状況についてみると、現実（現状）が「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」と答えた方は8割半ば、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」と答えた方ではほぼ6割、「『家庭生活』を優先している」と答えた方では5割半ばが希望と一致している。一方、「『仕事』を優先している」と答えた方の希望との一致度は1割半ばと少なくなっている。（図5-5-5）

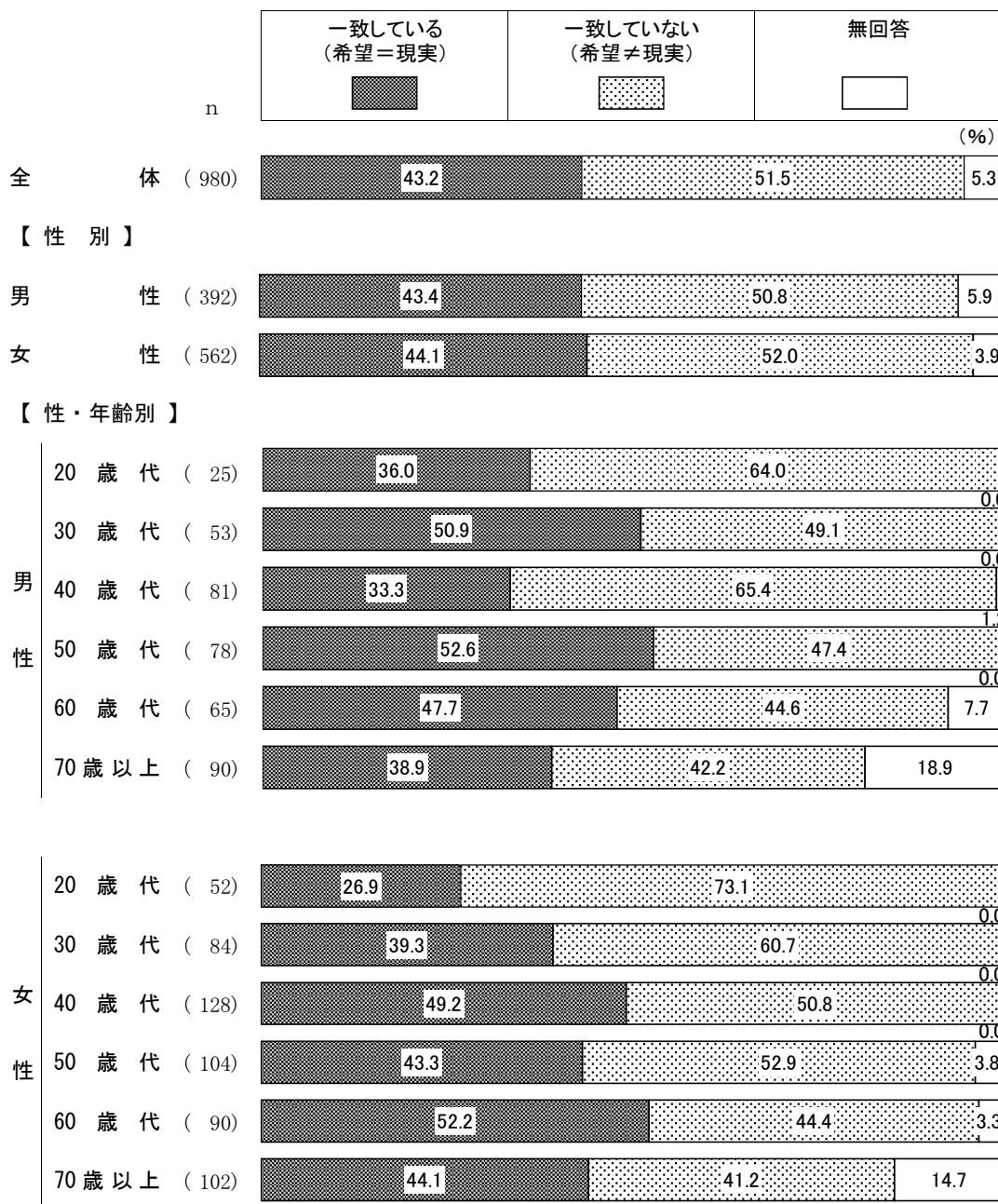
図5-5-6 生活の中での優先度（ワーク・ライフ・バランス）の希望と現実（現状）の一致状況②



※ 生活の中での優先度において、問37-1（希望）と問37-2（現実）の回答が一致しているかを集計。

生活の中での優先度の希望と現実（現状）が『一致している』（43.2%）は全体の4割半ば、「一致していない」（51.5%）はほぼ5割と二分している。（図5-5-6）

図5-5-7 生活の中での優先度（ワーク・ライフ・バランス）の希望と現実（現状）の一致状況②
 一性別／性・年齢別



生活の中での優先度の希望と現実（現状）の一致状況について、性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向となっている。

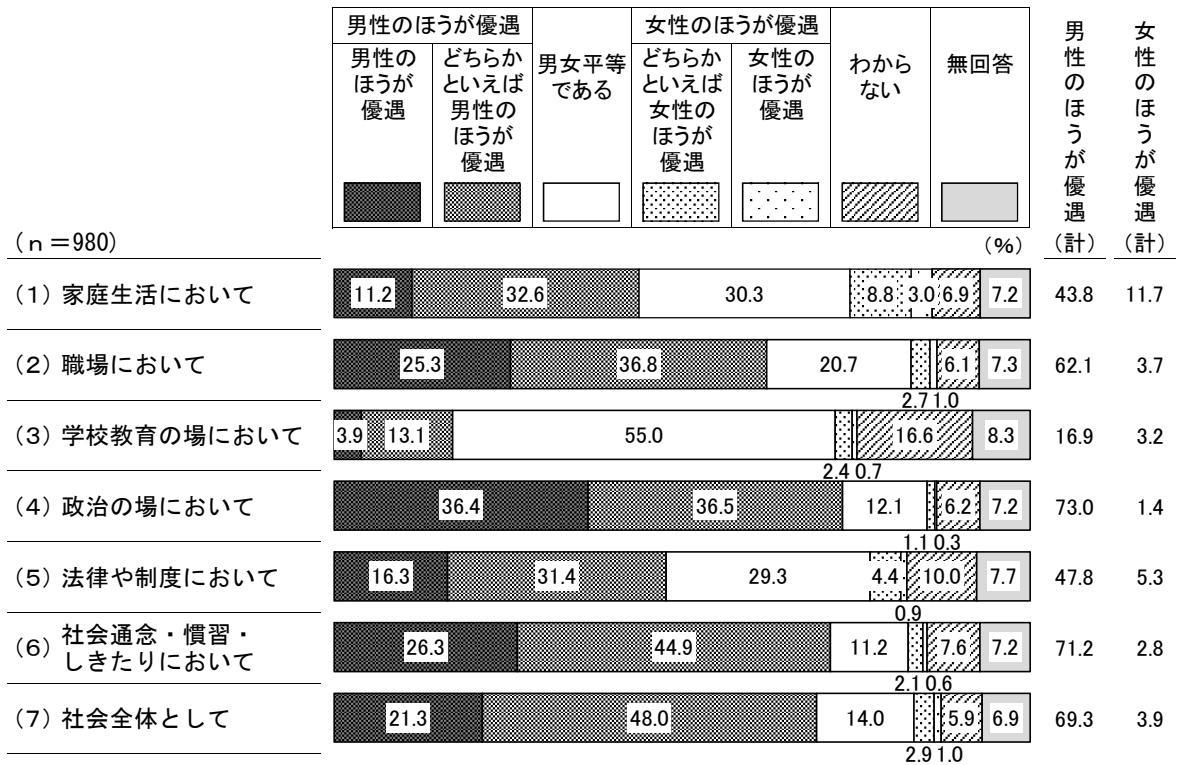
性・年齢別にみると、『一致している』は男性30歳代、50歳代、女性60歳代で5割台と多くなっている。『一致していない』は女性20歳代で7割台、男性20歳代、40歳代、女性30歳代で6割台と多くなっている。
 (図5-2-7)

(6) 男女平等についての考え

◇『男性のほうが優遇』は「政治の場において」、「社会通念・慣習・しきたりにおいて」でそれぞれ7割を超え、「男女平等である」は「学校教育の場において」で5割半ば

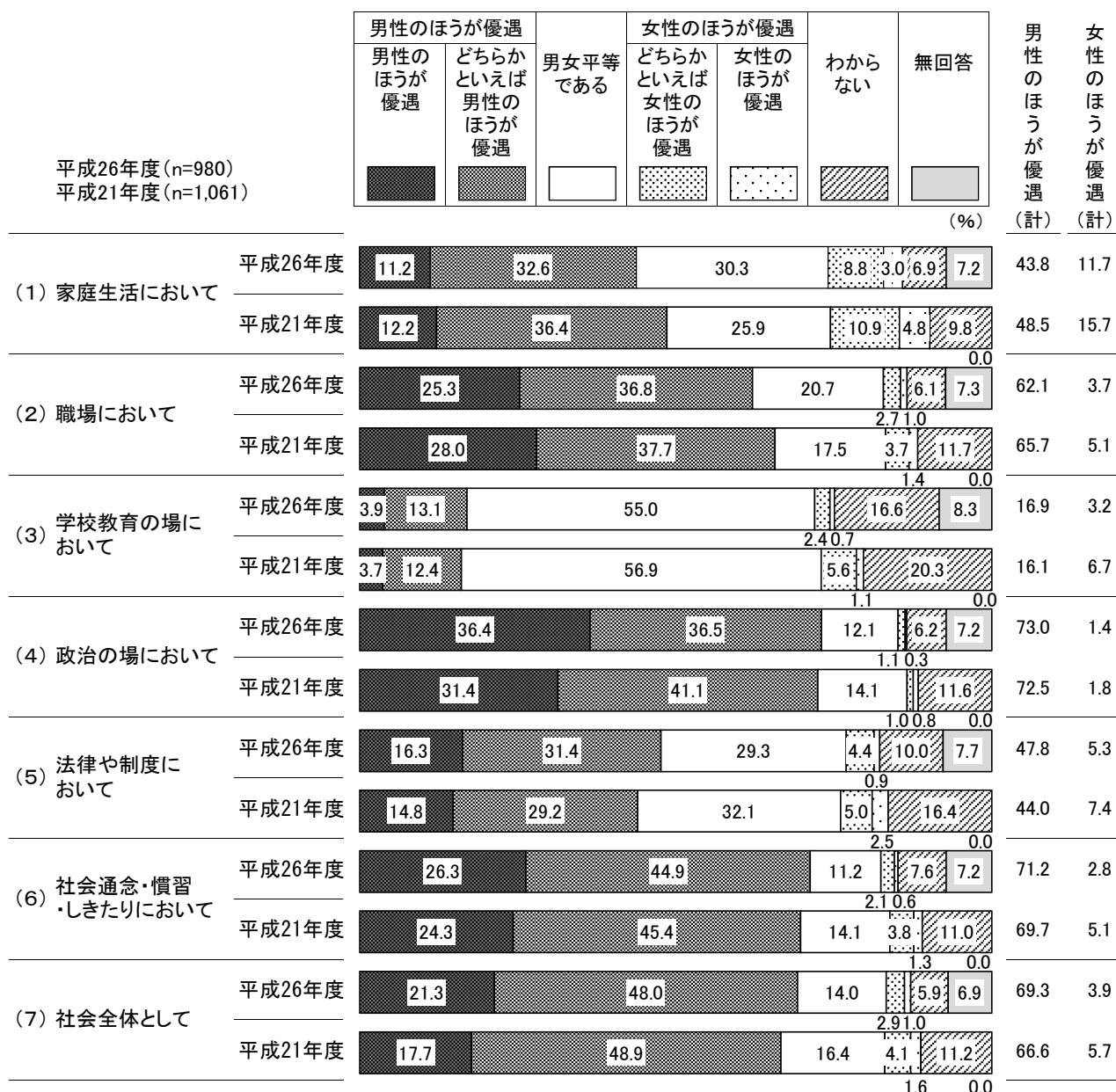
問25 あなたは、次にあげる分野において、男女平等が実現していると思いますか。次の(1)～(7)の項目ごとに、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

図5-6-1 男女平等についての考え



男女平等が実現していると思うか7分野について聞いたところ、「男性のほうが優遇」と「どちらかといえば男性のほうが優遇」を合わせた『男性のほうが優遇』は(4)政治の場において(73.0%)、(6)社会通念・慣習・しきたりにおいて(71.2%)でそれぞれ7割を超えている。次いで(7)社会全体として(69.3%)が7割近く、(2)職場において(62.1%)が6割を超えている。「男女平等である」は(3)学校教育の場において(55.0%)が5割半ばとなっている。(図5-6-1)

図5-6-2 男女平等についての考え—過年度比較



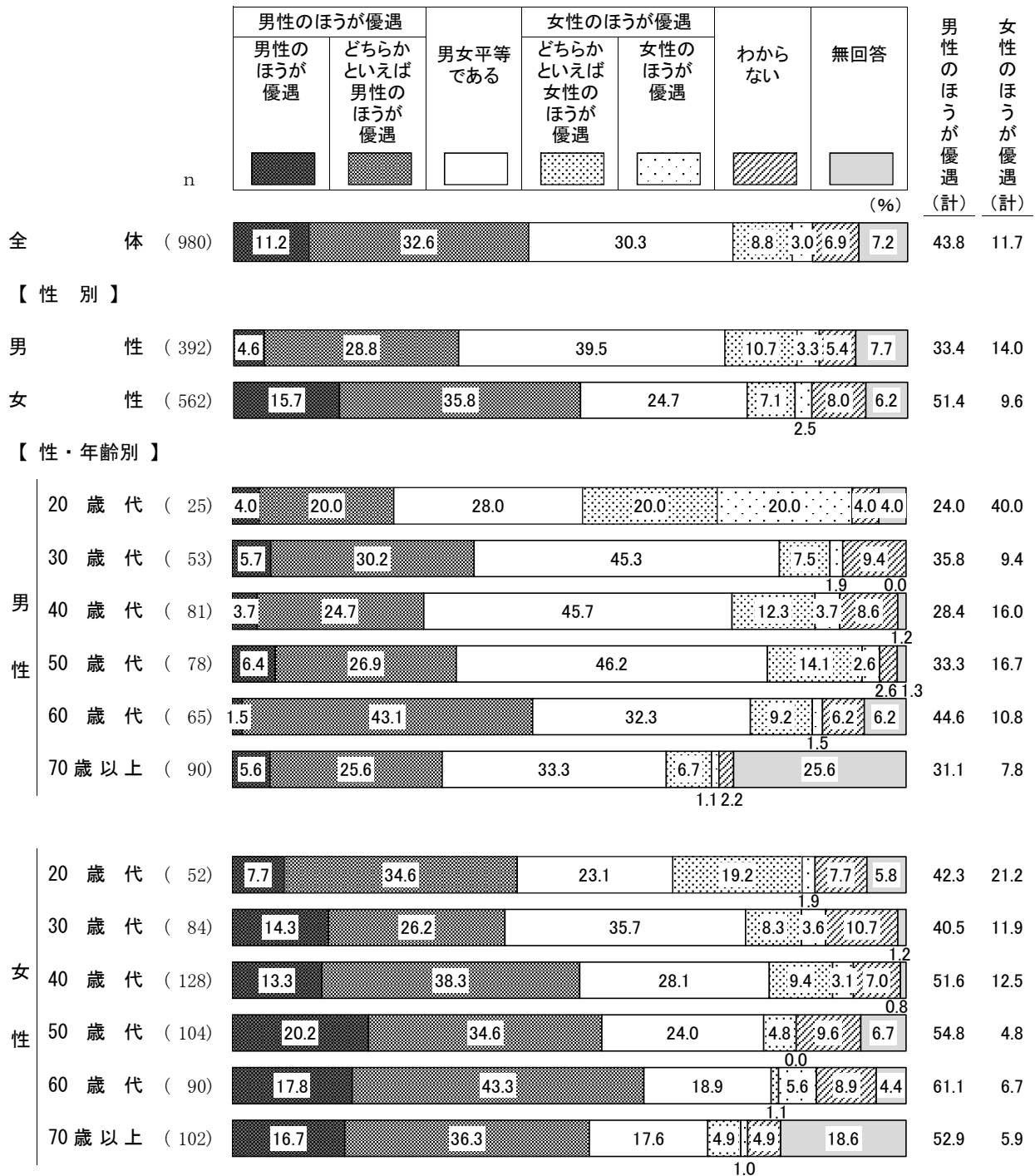
過去の調査と比較すると、平成21年度調査より「男女平等である」は（１）家庭生活において4.4ポイント、（２）職場において3.2ポイント増加している。

（５）法律や制度において、（６）社会通念・慣習・しきたりにおいて、（７）社会全体としての３項目については、「男女平等である」が順に2.8ポイント、2.9ポイント、2.4ポイント、『女性のほうが優遇』が順に2.1ポイント、2.3ポイント、1.8ポイント減少し、一方で、『男性のほうが優遇』が順に3.8ポイント、1.5ポイント、2.7ポイント増加している。

(図5-6-2)

図5-6-3 男女平等についての考え—性別／性・年齢別

(1) 家庭生活において

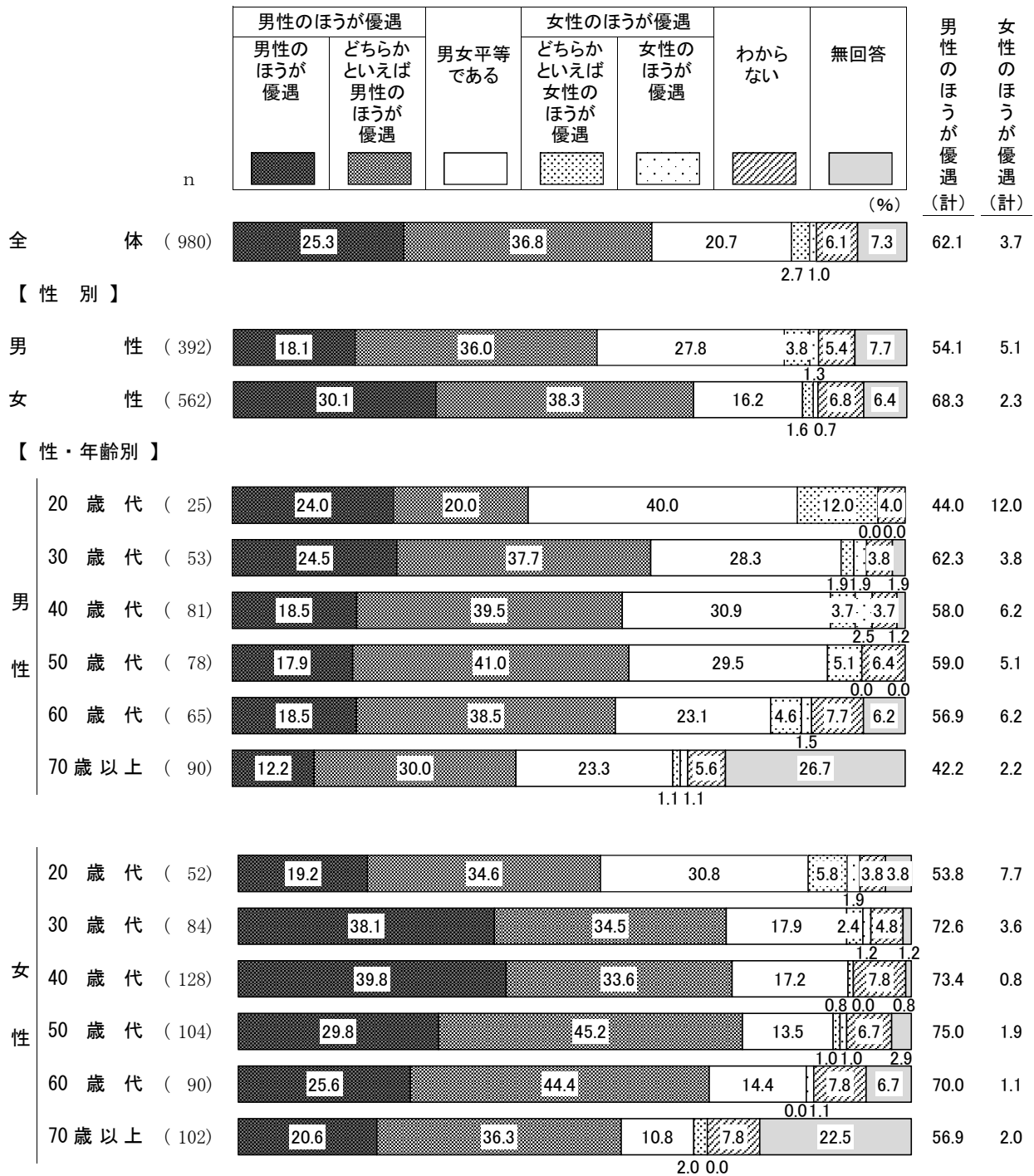


(1) 家庭生活において、性別にみると、「男女平等である」は男性の方が14.8ポイント高く、『男性のほうが優遇』は女性の方が18.0ポイント高く、『女性のほうが優遇』は男性の方が4.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、男性は30歳代から50歳代で「男女平等である」が4割半ばと多くなっている。女性は60歳代までの年代で高い年代ほど『男性のほうが優遇』が多い傾向となっており、女性60歳代で6割を超えて多くなっている。(図5-6-3)

図5-6-4 男女平等についての考え—性別／性・年齢別

(2) 職場において

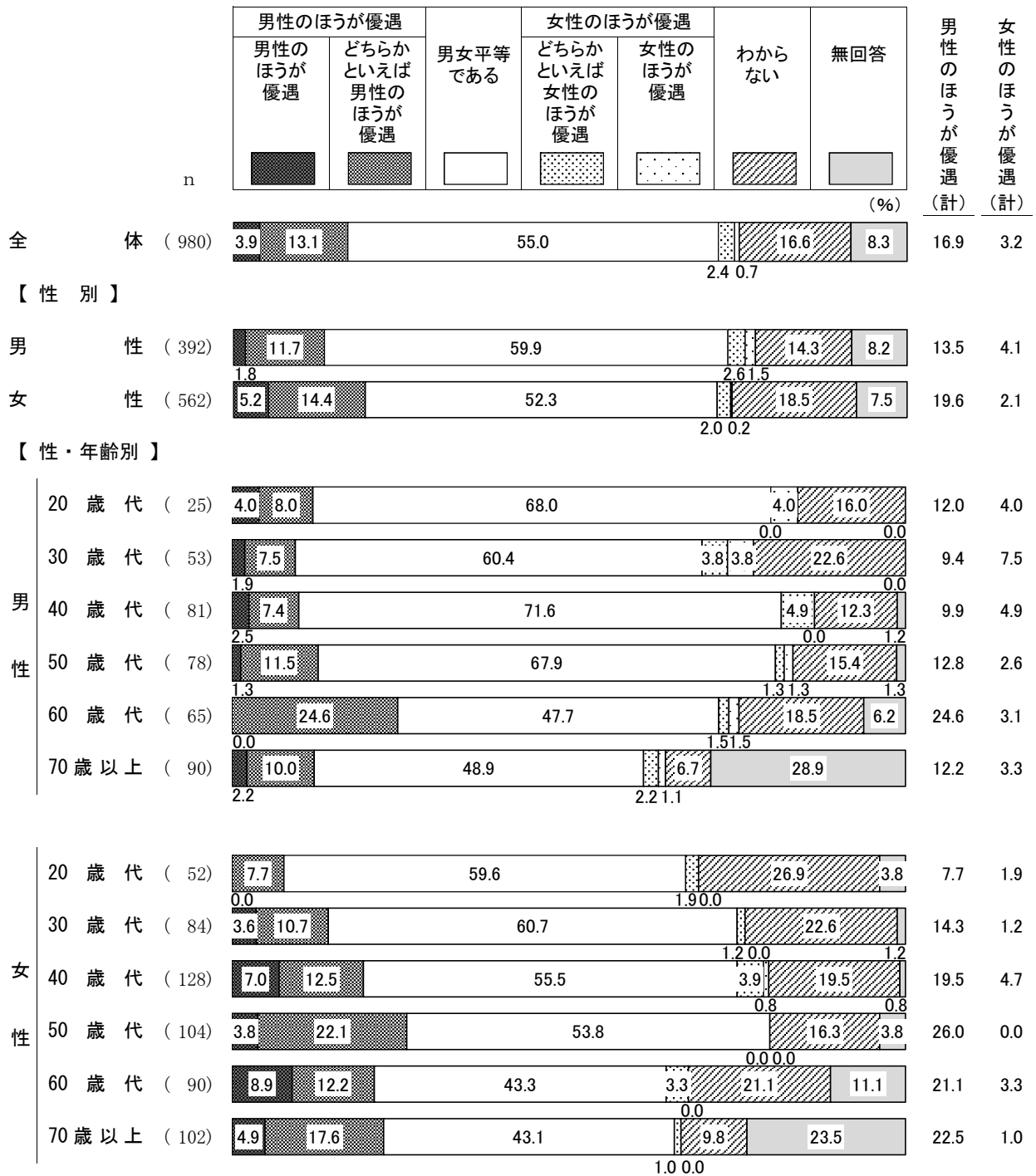


(2) 職場において、性別にみると、「男女平等である」は男性の方が11.6ポイント高く、『男性のほうが優遇』は女性の方が14.2ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、『男性の方が優遇』は女性30歳代から60歳代で7割を超えており、男性30歳代から60歳代で6割前後となっている。(図5-6-4)

図5-6-5 男女平等についての考え—性別／性・年齢別

(3) 学校教育の場において

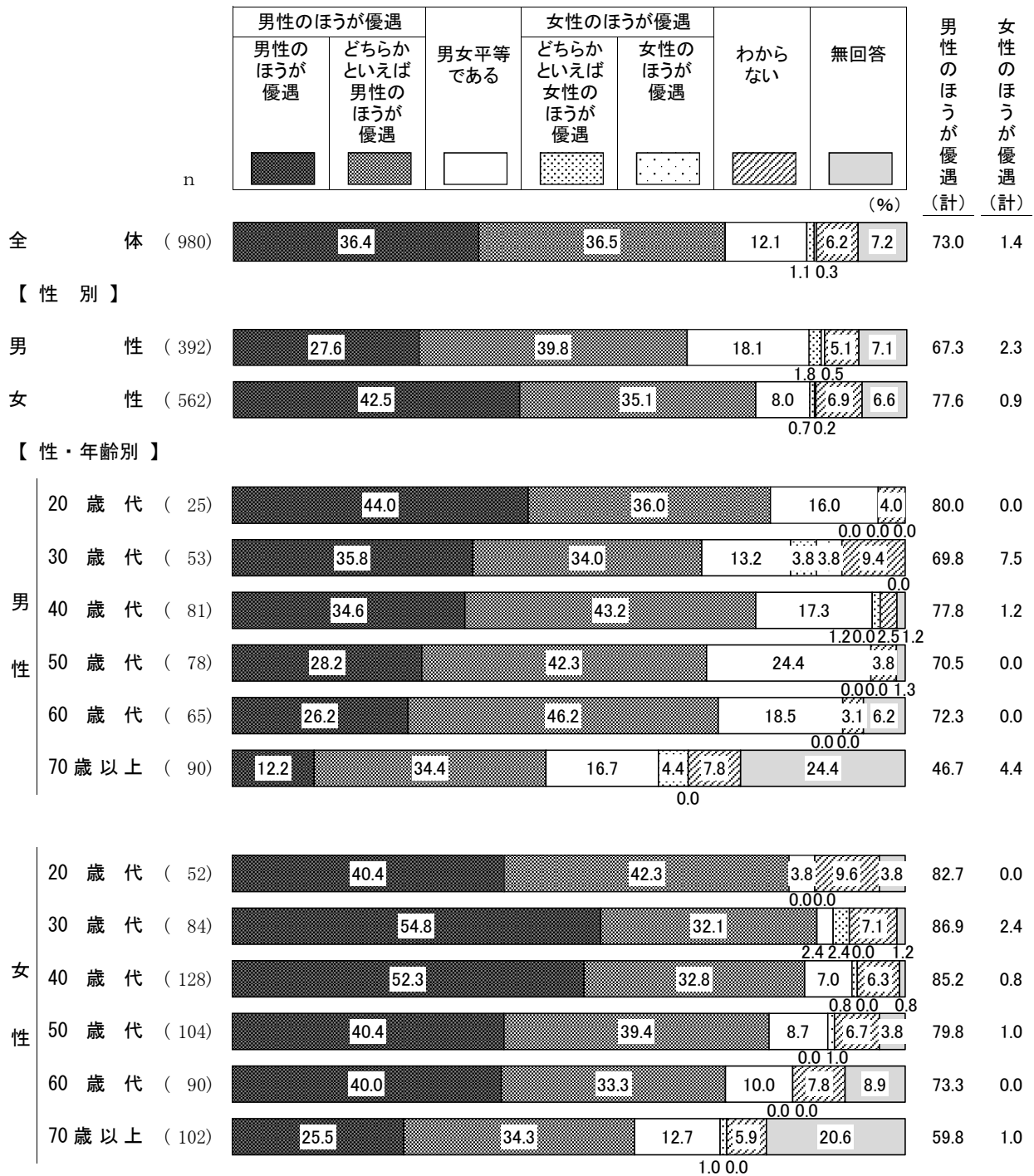


(3) 学校教育の場において、性別にみると、「男女平等である」は男性の方が7.6ポイント高く、『男性のほうが優遇』は女性の方が6.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「男女平等である」は男性20歳代から50歳代で6割以上、女性20歳代から30歳代でほぼ6割と多くなっている。(図5-6-5)

図5-6-6 男女平等についての考え—性別／性・年齢別

(4) 政治の場において

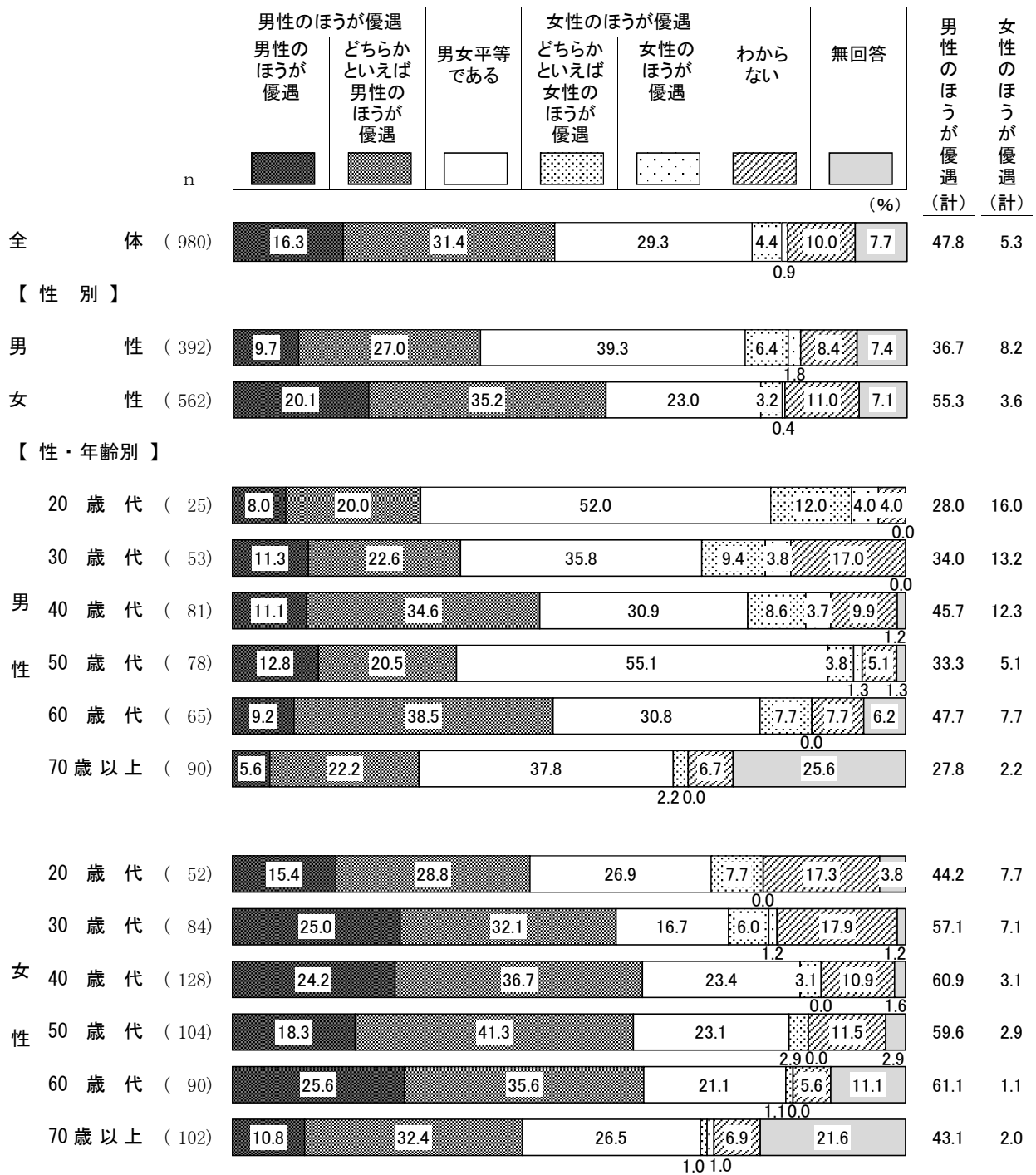


(4) 政治の場において、性別にみると、「男女平等である」は男性の方が10.1ポイント高く、『男性のほうが優遇』は女性の方が10.3ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「男女平等である」は男性50歳代で2割半ばと多く、女性については30歳代以上の年代で高い年代ほど多い傾向となっているが、最も多い70歳以上でも12.7%にとどまっている。『男性のほうが優遇』は男女ともに低い年代ほど多い傾向であり、男性20歳代、女性20歳代から40歳代で8割を超えている。(図5-6-6)

図5-6-7 男女平等についての考え—性別／性・年齢別

(5) 法律や制度において

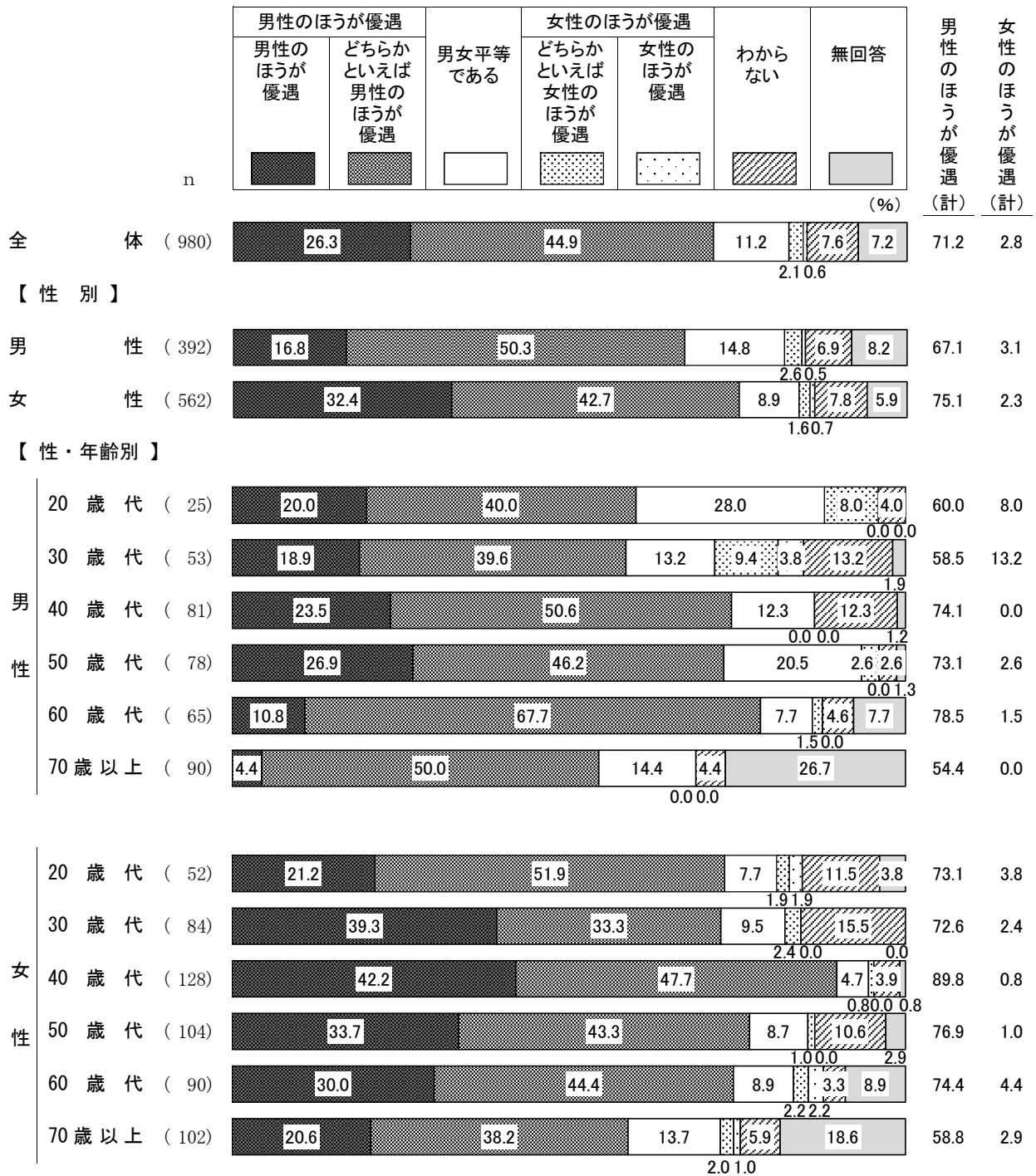


(5) 法律や制度において、性別にみると、「男女平等である」は男性の方が16.3ポイント高く、『男性のほうが優遇』は女性の方が18.6ポイント高く、『女性のほうが優遇』は男性の方が4.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「男女平等である」は男性20歳代、50歳代で5割台と多くなっている。『男性のほうが優遇』は女性30歳代から60歳代で6割近くと多くなっており、『女性のほうが優遇』は男性20歳代から40歳代で1割台となっている。(図5-6-7)

図5-6-8 男女平等についての考え—性別／性・年齢別

(6) 社会通念・慣習・しきたりにおいて

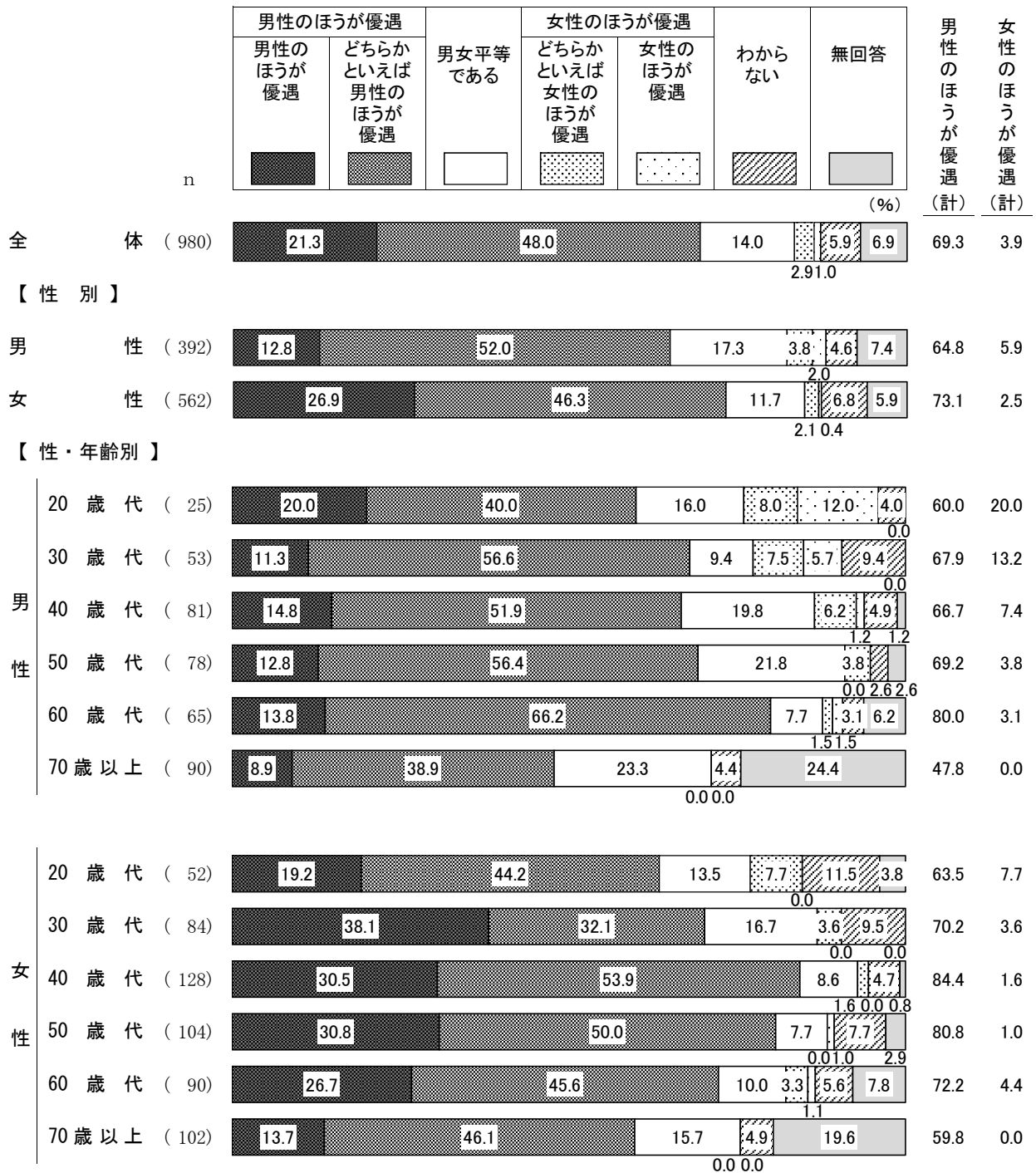


(6) 社会通念・慣習・しきたりにおいて、性別にみると、「男女平等である」は男性の方が5.9ポイント高く、『男性のほうが優遇』は女性の方が8.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「男女平等である」は男性20歳代、50歳代で2割台と多くなっている。『男性のほうが優遇』は女性40歳代で9割近と多くなっている。(図5-6-8)

図5-6-9 男女平等についての考え—性別／性・年齢別

(7) 社会全体として



(7) 社会全体として、性別にみると、「男女平等である」は男性の方が5.6ポイント高く、『男性のほうが優遇』は女性の方が8.3ポイント高く、『女性のほうが優遇』は男性の方が3.4ポイント高くなっている。

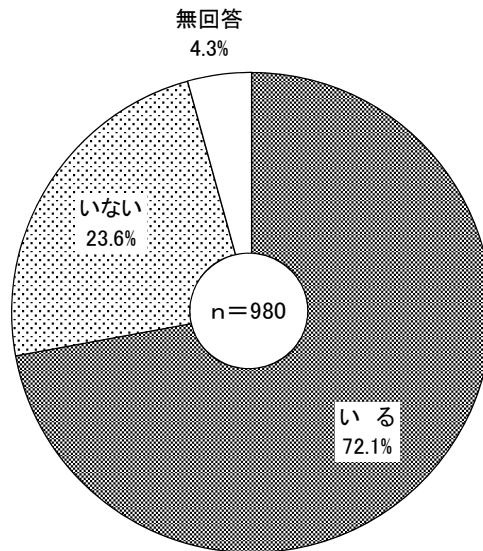
性・年齢別にみると、「男女平等である」は男性50歳代、70歳以上で2割台となっている。『男性のほうが優遇』は女性40歳代で8割半ば、女性50歳代、男性60歳代でほぼ8割となっている。『女性のほうが優遇』は男性については低い年代ほど多い傾向となっており、男性20歳代で2割となっている。(図5-6-9)

(7) 親しいパートナーの有無

◇ 「いる」が7割を超える

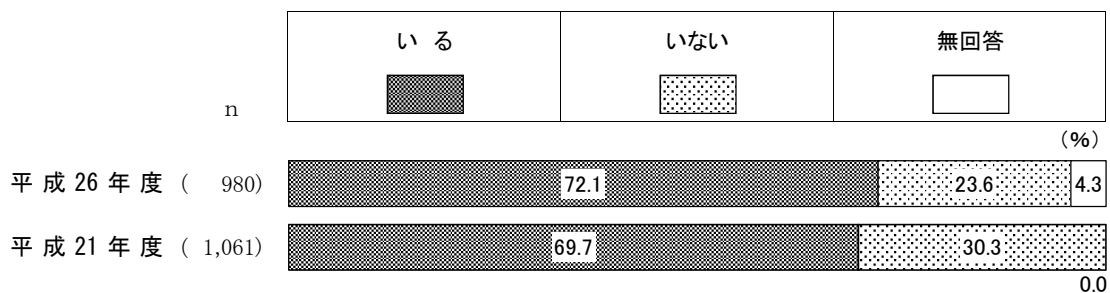
問39 あなたは、現在、配偶者や恋人などの親しいパートナーがいますか。(○は1つ)

図5-7-1 親しいパートナーの有無



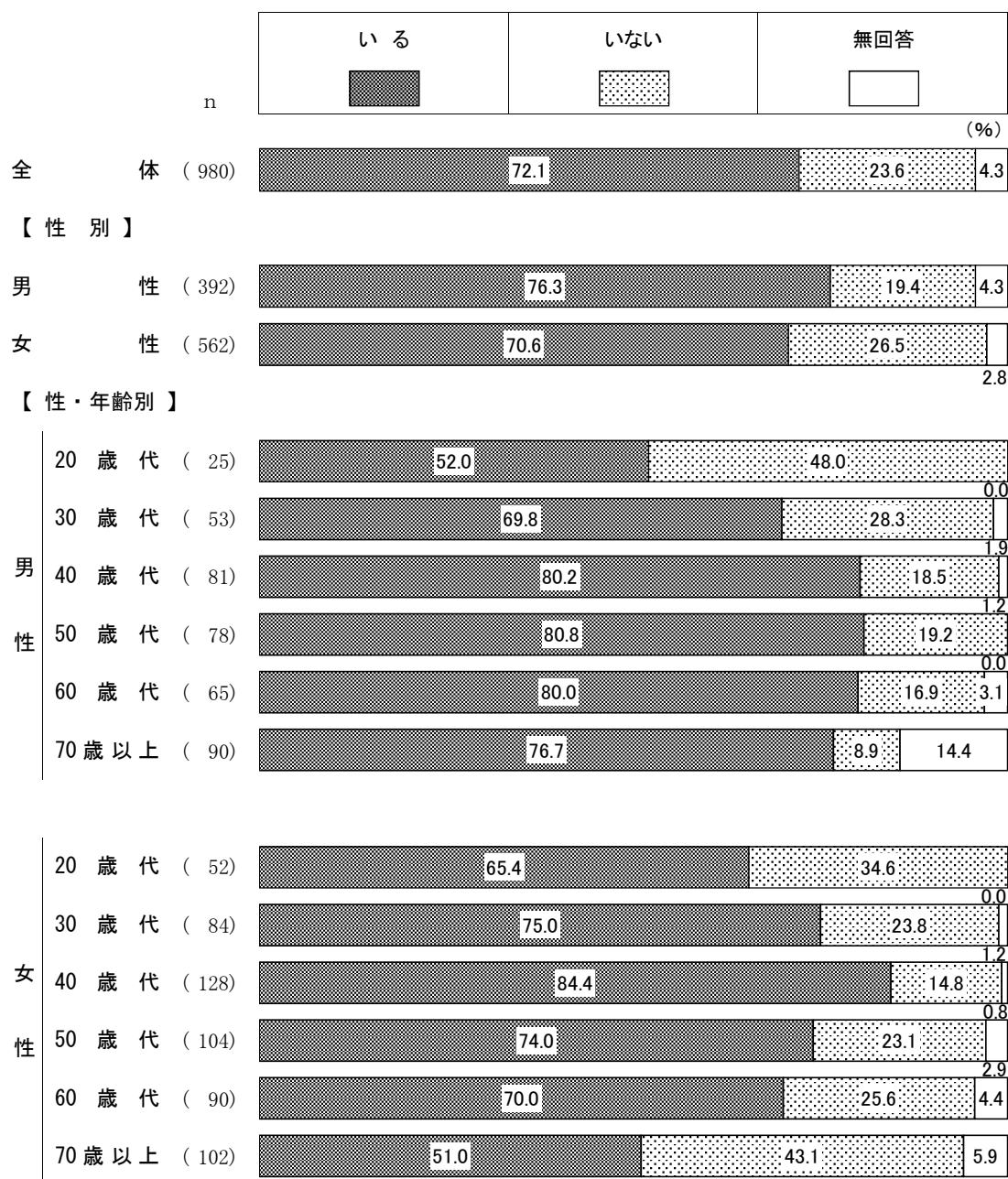
配偶者や恋人などの親しいパートナーがいるか聞いたところ、「いる」(72.1%)が7割ほど、「いない」(23.6%)が2割半ばとなっている。(図5-7-1)

図5-7-2 親しいパートナーの有無-過年度比較



過去の調査と比較すると、平成21年度調査より「いる」が2.4ポイント高くなっている。(図5-7-2)

図5-7-3 親しいパートナーの有無—性別／性・年齢別



性別にみると、「いる」は男性の方が5.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「いる」は女性40歳代で8割半ばと多く、男性40歳代から60歳代が8割となっている。一方、「いない」は男性20歳代で5割近く、女性70歳以上で4割を超えている。(図5-7-3)

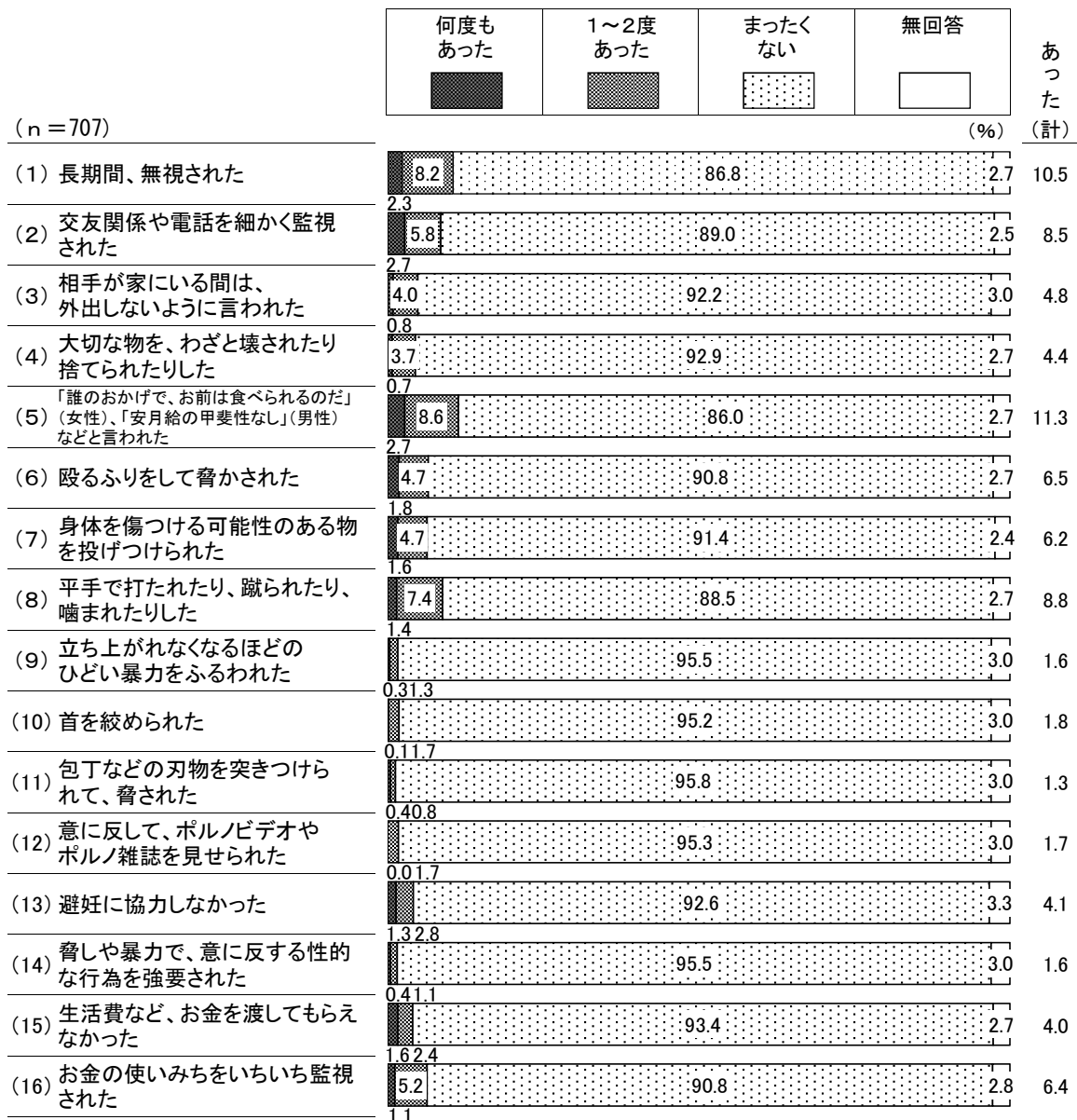
(7-1) ドメスティックバイオレンス経験の有無

◇「まったくない」は全ての経験で8割半ばから9割半ば

(問39で「1. いる」と答えた方へ)

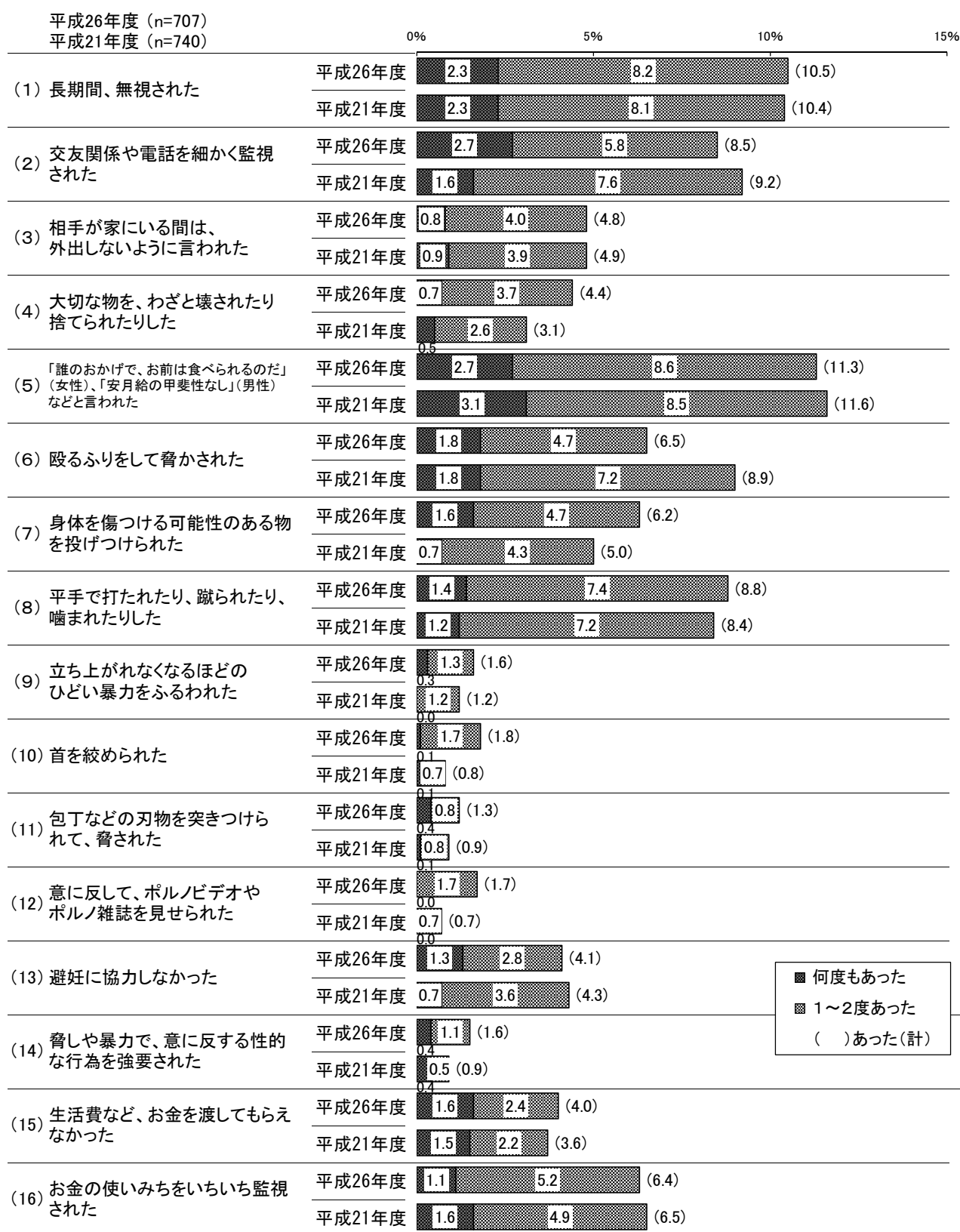
問39-1 パートナーからの身体的・精神的・経済的な暴力は、『ドメスティックバイオレンス(DV)』と呼ばれる社会問題になっています。あなたはこれまでに、パートナーから次のようなことをされたことがありますか。次の(1)～(16)の項目ごとに、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

図5-7-4 ドメスティックバイオレンス経験の有無



親しいパートナーが「いる」と答えた方(707人)にパートナーからの身体的・精神的・経済的な暴力を受けたことがあるか聞いたところ、「何度もあった」と「1~2度あった」を合わせた『あった』は(5)「誰のおかげで、お前は食べられるのだ」(女性)、「安月給の甲斐性なし」(男性)などと言われた(11.3%)、(1)長期間、無視された(10.5%)が1割台となっている。次いで(8)平手で打たれたり、蹴られたり、噛まれたりした(8.8%)、(2)交友関係や電話を細かく監視された(8.5%)などとなっている。ほとんどの項目で「まったくない」が9割から9割半ばとなっている。(図5-7-4)

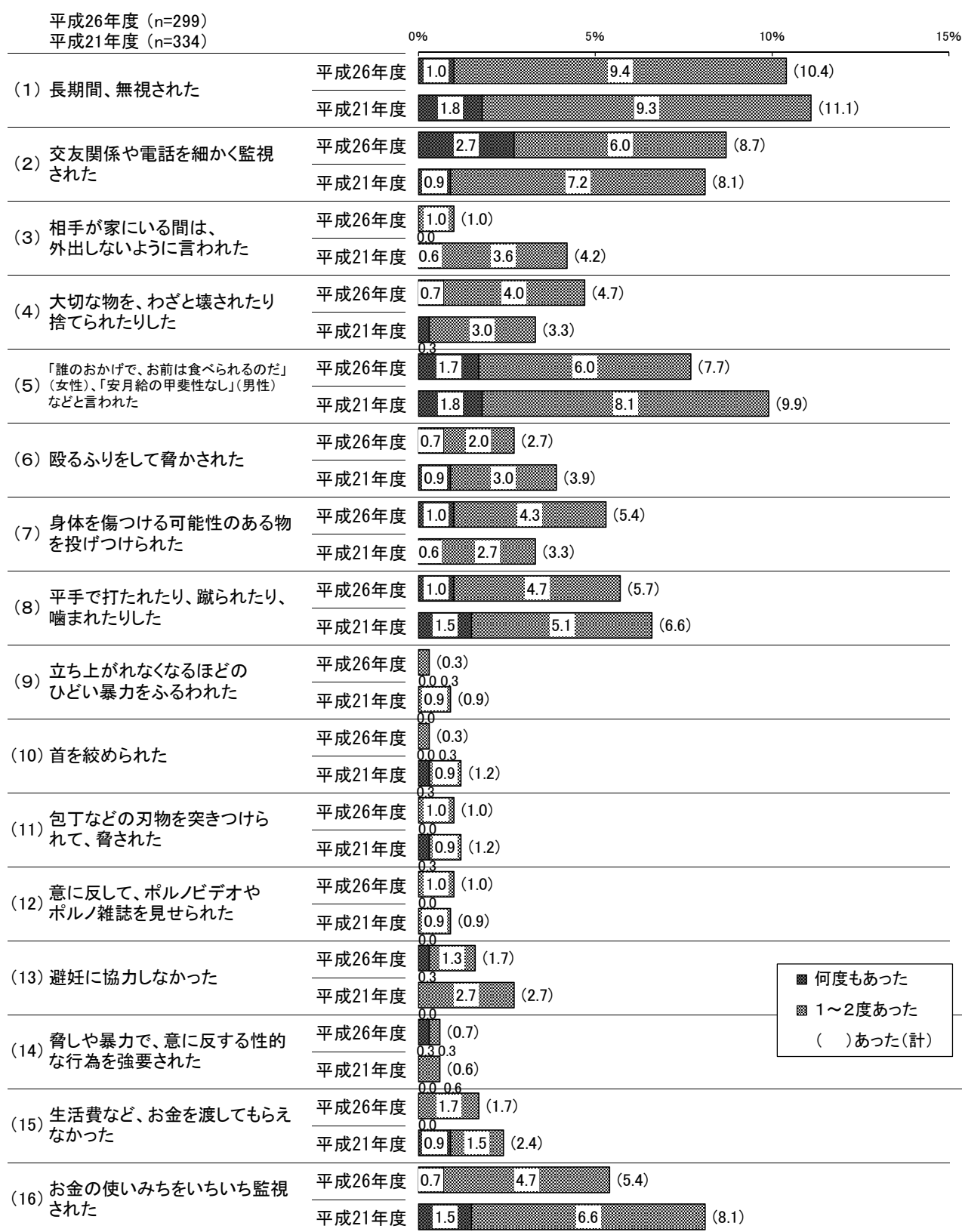
図5-7-5 ドメスティックバイオレンス経験の有無—過年度比較



過去の調査と比較すると、平成21年度調査より『あった』は(6)殴るふりをして脅かされたが2.4ポイント減少し、(4)大切な物を、わざと壊されたり捨てられたりしたが1.3ポイント、(7)身体を傷つける可能性のある物を投げつけられたが1.2ポイント増加している。

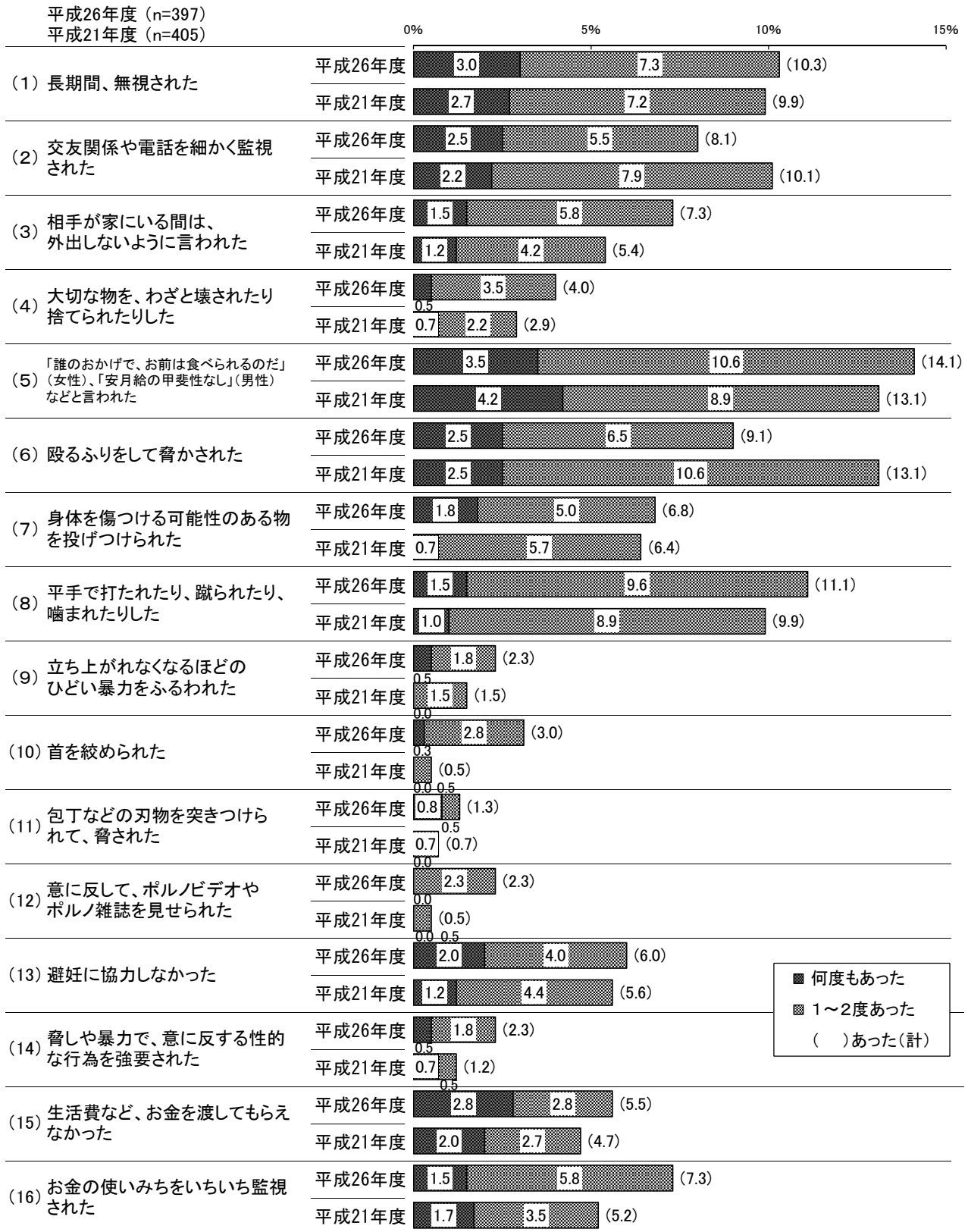
(図5-7-5)

図5-7-6 ドメスティックバイオレンス経験の有無一過年度比較【男性】



男性について、過去の調査と比較すると、平成21年度調査より『あった』は(3)相手が家にいる間は、外出しないように言われたが3.2ポイント、(16)お金の使いみちをいちいち監視されたが2.7ポイント、(5)「誰のおかげで、お前は食べられるのだ」(女性)、「安月給の甲斐性なし」(男性)などと言われたが2.2ポイント減少し、(7)身体を傷つける可能性のある物を投げつけられたが2.1ポイント増加している。(図5-7-6)

図5-7-7 ドメスティックバイオレンス経験の有無—過年度比較【女性】



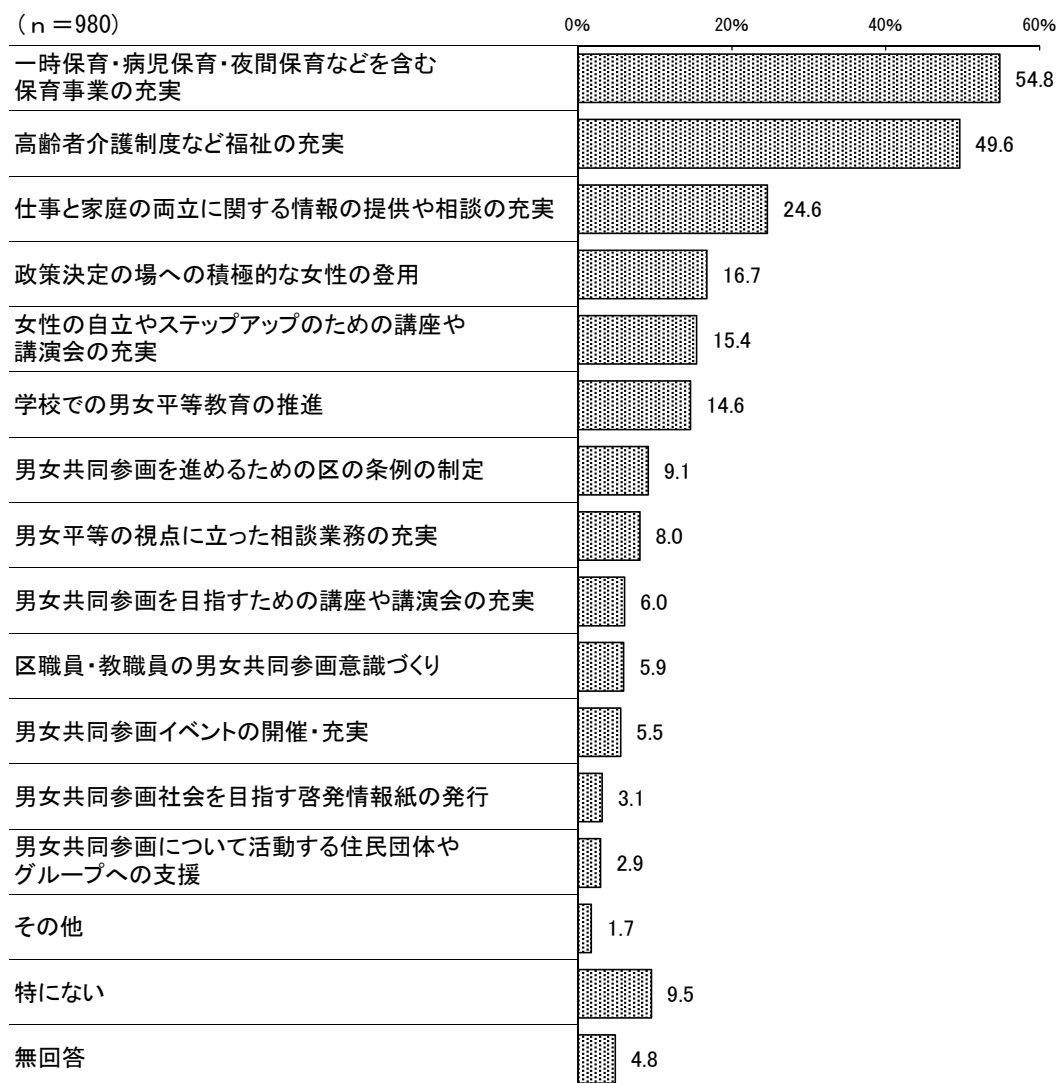
女性について、過去の調査と比較すると、平成21年度調査より『あった』は(6)殴るふりをして脅かされたが4.0ポイント、(2)交友関係や電話を細かく監視されたが2.0ポイント減少し、(10)首を絞められたが2.5ポイント、(16)お金の使いみちをいちいち監視されたが2.1ポイント、(3)相手が家にいる間は、外出しないように言われたが1.9ポイント増加している。(図5-7-7)

(8) 男女共同参画社会実現のために区へ望むこと

◇「一時保育・病児保育・夜間保育などを含む保育事業の充実」が5割半ば、「高齢者介護制度など福祉の充実」が5割

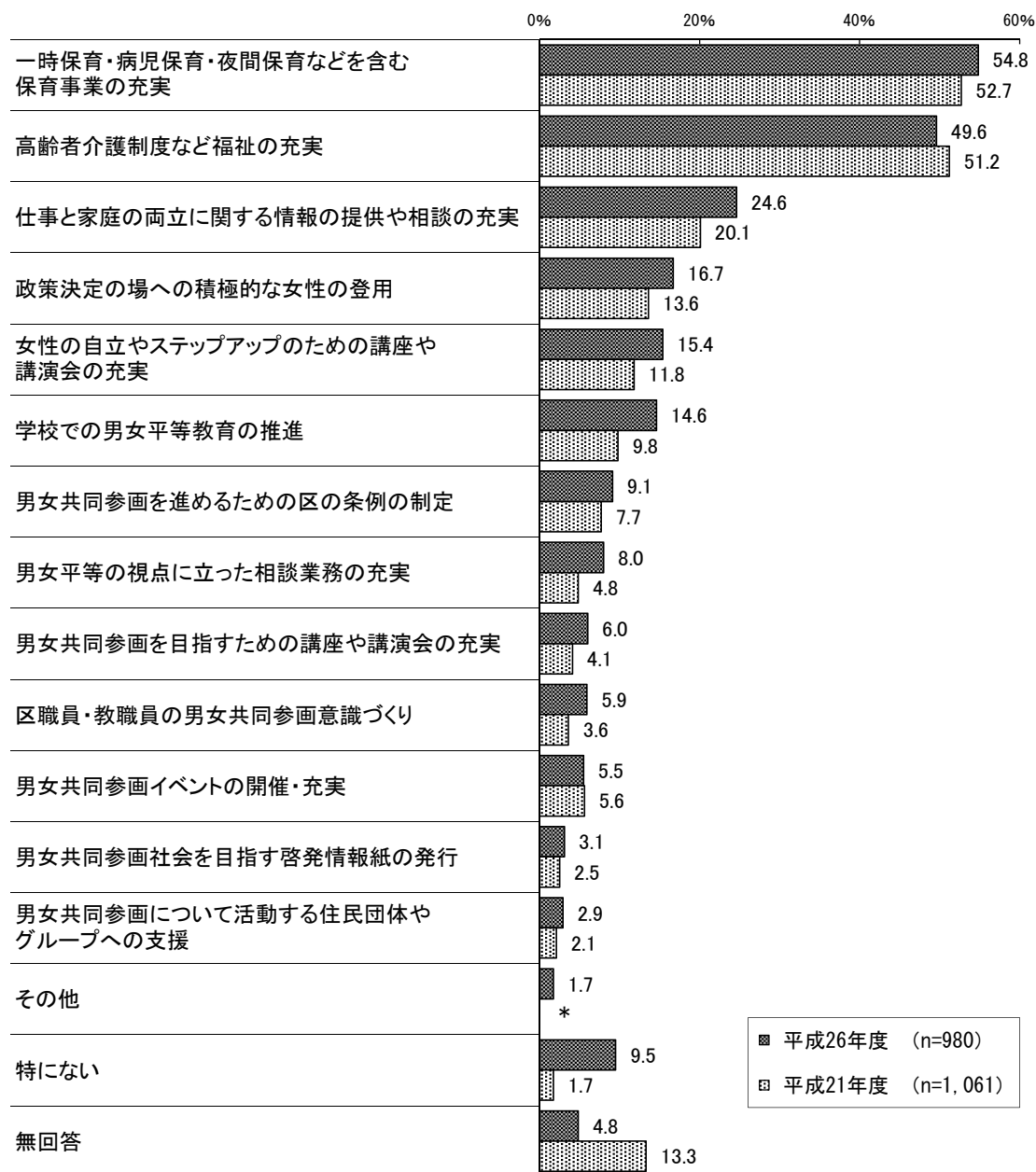
問40 あなたは、性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を実現するために、区にどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。特に力を入れてほしいものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。
(3つまで)

図5-8-1 男女共同参画社会実現のために区へ望むこと



男女共同参画社会を実現するために区へ望むことを聞いたところ、「一時保育・病児保育・夜間保育などを含む保育事業の充実」(54.8%)が5割半ば、「高齢者介護制度など福祉の充実」(49.6%)が5割近くと多く、「仕事と家庭の両立に関する情報の提供や相談の充実」(24.6%)、「政策決定の場への積極的な女性の登用」(16.7%)、「女性の自立やステップアップのための講座や講演会の充実」(15.4%)などの順となっている。(図5-8-1)

図5-8-2 男女共同参画社会実現のために区へ望むこと一過年度比較

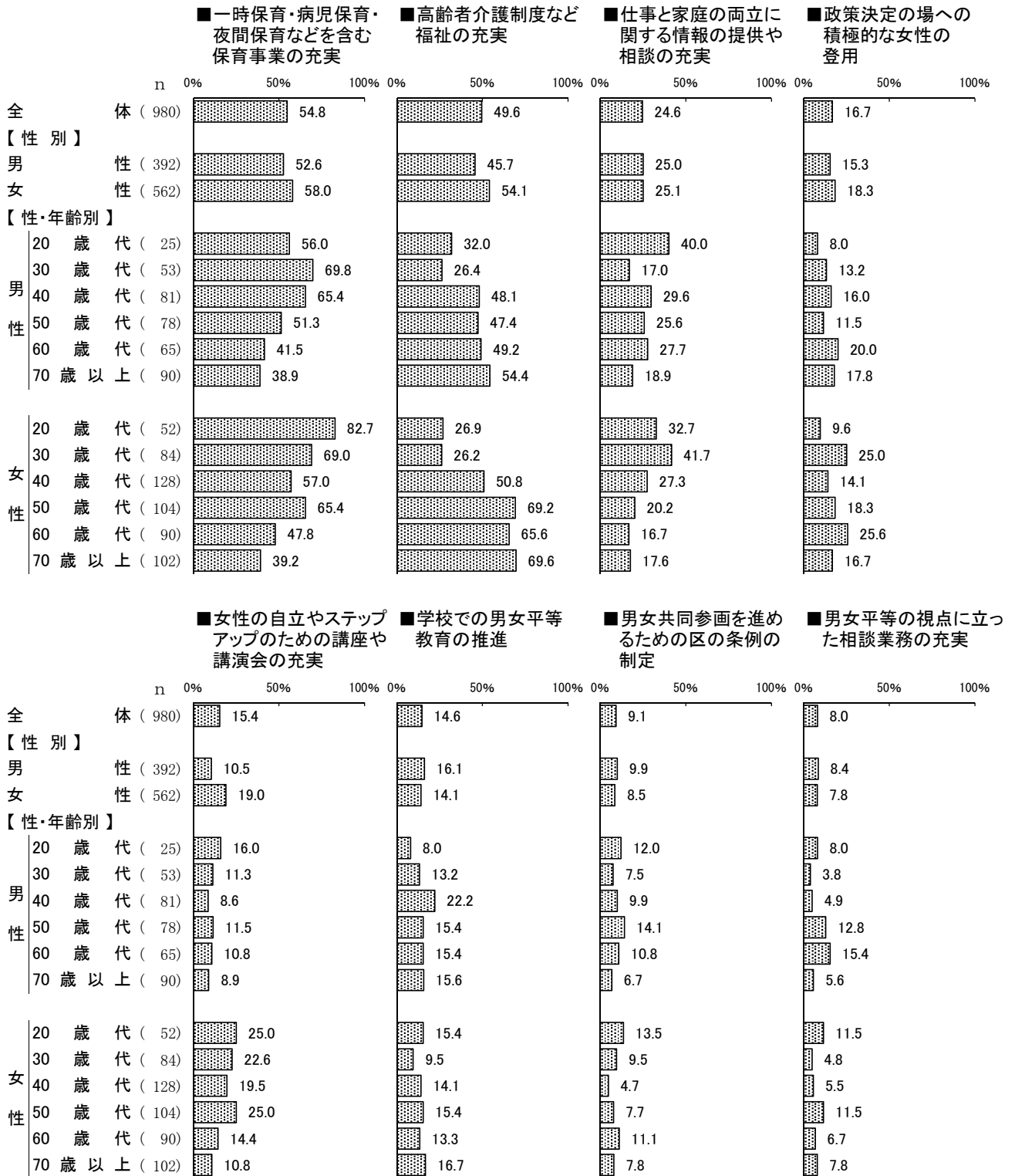


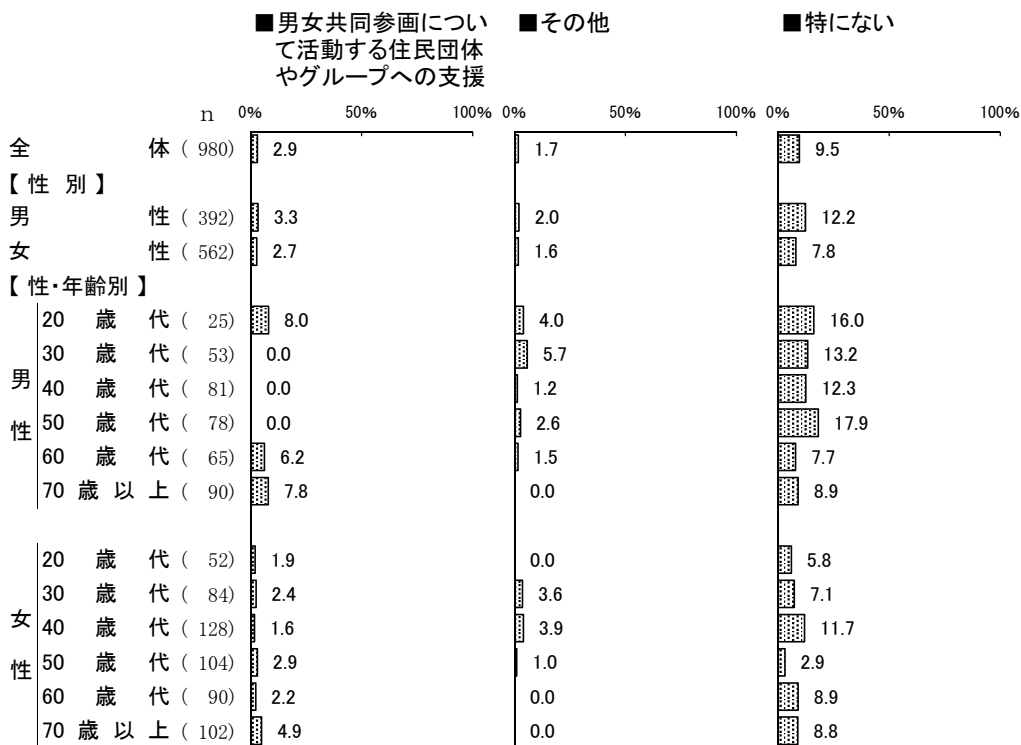
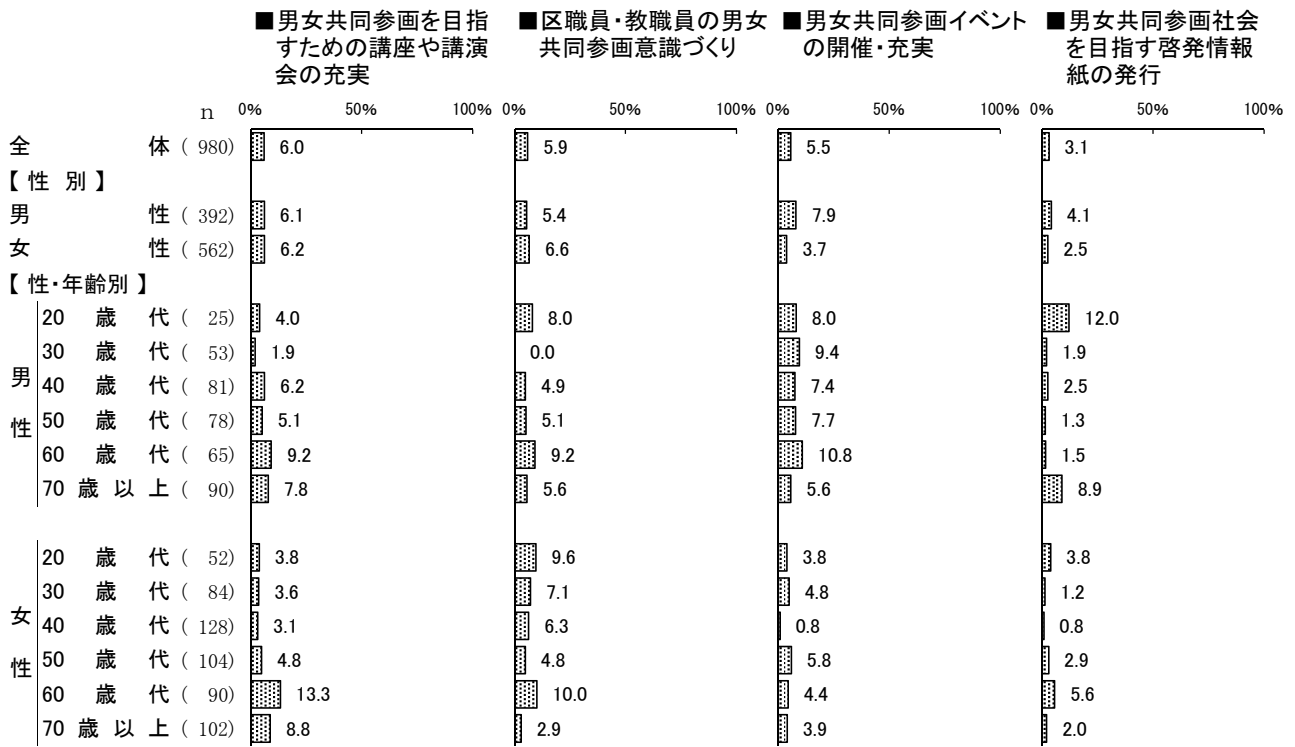
(注) * : 「その他」は平成21年度は選択肢なし。

過去の調査と比較すると、平成21年度調査より「学校での男女平等教育の推進」が4.8ポイント、「仕事と家庭の両立に関する情報の提供や相談の充実」が4.5ポイント高くなっている。

(図5-8-2)

図5-8-3 男女共同参画社会実現のために区へ望むこと－性別／性・年齢別





性別にみると、女性の方が「女性の自立やステップアップのための講座や講演会の充実」が8.5ポイント、「高齢者介護制度など福祉の充実」が8.4ポイント、「一時保育・病児保育・夜間保育などを含む保育事業の充実」が5.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「一時保育・病児保育・夜間保育などを含む保育事業の充実」、「仕事と家庭の両立に関する情報の提供や相談の充実」、「女性の自立やステップアップのための講座や講演会の充実」は男女ともに低い年代ほど多い傾向となっている。一方、「高齢者介護制度など福祉の充実」は男女ともに、「政策決定の場への積極的な女性の登用」は男性については高い年代ほど多い傾向となっている。(図5-8-3)

